

平成30年度

# 茨木市埋蔵文化財発掘調査概報

—平成30年度国庫補助事業—

平成31年（2019年）3月



茨木市教育委員会



## 序 文

私たちの住む茨木では、北半部は老ノ坂山地の麓、南半部には大阪平野の一部をなす三島平野が広がり、温暖な気候と豊かな自然に恵まれたベッドタウンとして過ごしやすい環境のもと、数多くの歴史が育まれてきました。

文化施設の充実をはじめ、安心・安全なまちづくりをめざして発展をとげた本市は、交通の利便性や京都・大阪間という立地の良さも手伝い大規模な開発も少なくありません。昨今の時勢のなか、開発に伴う埋蔵文化財の調査は全国的に減少傾向にあるのに対し、本市では緩やかながら増加しています。

本書は、平成30年度に実施した個人住宅建築工事に伴う発掘調査と、千提寺菱ヶ谷遺跡の範囲確認調査の概要報告書です。これら一つ一つを積み重ねた調査成果が、郷土茨木の歴史遺産として広く活用されることを願ってやみません。

調査の実施にあたりましては、土地所有者、施工関係者、近隣住民の皆様にはご理解と多大なご協力を賜りました。また、文化庁、大阪府教育庁ならびに関係諸機関には、格別のご指導とご配慮をいただき、茨木市の文化財保護行政が推進できましたことを感謝いたしますとともに、今後ともより一層のご理解とご支援をお願い申し上げます。

平成31年3月31日

茨木市教育委員会

教育長 岡田祐一



## 例 言

1. 本書は、平成30年度国宝重要文化財等保存・活用事業費市内遺跡発掘調査等事業（総額8,000,000円の内、国庫4,000,000円、市費4,000,000円）として実施した個人住宅建築に伴う埋蔵文化財発掘調査及び千提寺菱ヶ谷遺跡の範囲確認調査の概要報告書である。平成30年度として、平成30年4月1日から平成31年3月31日までの期間で発掘調査及び整理作業を実施した。ただし本書では、整理作業の都合から平成30年1月から同年12月末までに調査を終了したものを対象に報告する。
2. 調査の実施は、本市教育委員会歴史文化財課調査管理係（平成30年3月31日まで社会教育振興課歴史文化財係）職員川村和子、木村健明、坂田典彦、高村勇士、富田卓見、濱田教靖、正岡大実、水久保祥子、宮西貴史があたり、阿部ともよ、岡篤史、川西宏実、川畑康雄がこれを補助した。
3. 本書の執筆は各調査担当者がおこない、木村、高村が編集にあたった。
4. 本書の執筆にあたり、安部考古動物学研究所安部みき子氏、大阪府教育庁文化財保護課市川創氏よりご教示を得た。

## 凡 例

1. 本書で使用する標高はT.P.（東京湾標準海水面）で表記する。各挿図に掲載する表記の内、M.N.は磁北を示し、表記のないものは国土座標系〔第VI系〕に基づく座標北を示す。
2. 挿図及び本文中の土色表記は、小山正忠、竹原秀雄 編著『新版標準土色帖』（2014年版）に基づく。また、地層の粒度の記載に関しては、基本的にWentworth（1922）の区分を使用した。
3. 遺物、図面・写真等の記録は茨木市立文化財資料館〔〒567-0861大阪府茨木市東奈良三丁目12番18号 TEL072-634-3433〕にて保管している。広く活用されることを希望する。
4. 本書における遺構、遺物の時期決定には主に以下の文献を参考とした。  
森田克行 1990「摂津地域」『弥生土器の様式と編年 近畿編Ⅱ』木耳社  
中世土器研究会編 1995『概説 中世の土器・陶磁器』真陽社  
古代の土器研究会編 1996『古代の土器4 煮炊具（近畿編）』真陽社  
九州近世陶磁学会事務局編 2000『九州陶磁の編年』九州近世陶磁学会  
江戸遺跡研究会編 2001『図説 江戸考古学研究事典』柏書房  
乗岡 実 2002「第3節 近世備前焼摺鉢の編年案」『岡山城三之曲輪跡』岡山市教育委員会

# 本文目次

序文	第3節 郡遺跡・穂積廃寺跡・三島街道……………16
例言	第4節 宿久庄遺跡・西国街道……………19
凡例	第5節 総持寺遺跡・太田遺跡・太田北遺跡・西国街道……………22
目次	第6節 中穂積遺跡・松ヶ本北遺跡・常楽寺跡・三島街道……………25
第1章 地理・歴史的環境……………1	第7節 牟礼遺跡……………28
第1節 地理的環境……………1	第8節 中条小学校遺跡・東奈良遺跡……………30
第2節 歴史的環境……………1	第9節 玉櫛遺跡・西方浄土寺跡……………33
第2章 平成30年度調査地一覧……………3	第10節 平田遺跡・目垣遺跡……………37
第3章 調査の成果……………5	第11節 千提寺菱ヶ谷遺跡……………39
第1節 茨木遺跡・上中条遺跡……………5	写真図版
第2節 春日遺跡・倍賀遺跡……………9	抄録・奥付

# 挿図・表目次

図1 茨木市地質図……………1	図29 断面柱状図(穂積廃寺跡・郡遺跡・三島街道 2018-1)……………18	図47 常楽寺跡調査地位置図……………27
図2 平成30年度発掘調査地位置図……………4	図30 断面柱状図(穂積廃寺跡・三島街道 2018-1)……………19	図48 調査区配置図(常楽寺跡 2018-1)……………27
図3 茨木遺跡・上中条遺跡調査地位置図……………5	図31 宿久庄遺跡・西国街道調査地位置図……………19	図49 平断面図(常楽寺跡 2018-1)……………28
図4 断面柱状図(茨木遺跡 2017-8)……………6	図32 調査区配置図(宿久庄遺跡 2018-1)……………20	図50 牟礼遺跡調査地位置図……………28
図5 断面柱状図(茨木遺跡 2017-9)……………6	図33 平断面図(宿久庄遺跡 2018-1)……………20	図51 断面柱状図(牟礼遺跡 2017-8)……………29
図6 調査区配置図(茨木遺跡 2017-14)……………7	図34 断面柱状図(西国街道 2018-1)……………21	図52 断面柱状図(牟礼遺跡 2018-1)……………29
図7 平断面図(茨木遺跡 2017-14)……………7	図35 出土遺物(西国街道 2018-1)……………21	図53 中条小学校遺跡調査地位置図……………30
図8 断面柱状図(茨木遺跡 2018-2)……………8	図36 総持寺遺跡調査地位置図……………22	図54 中条小学校遺跡調査地位置図……………30
図9 断面柱状図(上中条遺跡 2018-1)……………8	図37 断面柱状図(総持寺遺跡 2018-1)……………22	図55 断面柱状図(中条小学校遺跡 2018-5)……………31
図10 春日遺跡・倍賀遺跡調査地位置図……………9	図38 太田遺跡・太田北遺跡・西国街道調査地位置図……………23	図56 東奈良遺跡調査地位置図……………31
図11 調査区配置図(春日遺跡 2017-3・4)……………10	図39 断面柱状図(太田遺跡 2018-2)……………23	図57 断面柱状図(東奈良遺跡 2017-10)……………32
図12 平断面図(春日遺跡 2017-3)……………10	図40 断面柱状図(太田遺跡・西国街道 2018-1)……………24	図58 東奈良遺跡調査地位置図……………32
図13 出土遺物(春日遺跡 2017-3)……………11	図41 出土遺物(太田遺跡・西国街道 2018-1)……………24	図59 断面柱状図(東奈良遺跡 2017-11)……………32
図14 平断面図(春日遺跡 2017-3)……………11	図42 断面柱状図(太田北遺跡・西国街道 2018-1)……………25	図60 玉櫛遺跡調査地位置図……………33
図15 断面柱状図(春日遺跡 2017-5)……………12	図43 中穂積遺跡・松ヶ本北遺跡調査地位置図……………25	図61 断面柱状図(玉櫛遺跡 2018-1)……………34
図16 断面柱状図(春日遺跡 2017-6)……………12	図44 調査区配置図(中穂積遺跡・三島街道 2018-1)……………26	図62 断面柱状図・出土遺物(玉櫛遺跡 2018-2)……………35
図17 調査区配置図(春日遺跡 2017-6)……………13	図45 平断面図(中穂積遺跡・三島街道 2018-1)……………26	図63 断面柱状図(玉櫛遺跡 2018-3)……………35
図18 出土遺物(春日遺跡 2018-1)……………13	図46 断面柱状図(松ヶ本北遺跡 2018-1)……………27	図64 断面柱状図(玉櫛遺跡 2018-4)……………36
図19 平断面図(春日遺跡 2018-1)……………13		図65 西方浄土寺跡調査地位置図……………36
図20 断面柱状図(春日遺跡 2018-2)……………14		図66 断面柱状図(西方浄土寺 2017-3)……………36
図21 調査区配置図(倍賀遺跡 2017-2)……………14		図67 平田遺跡・目垣遺跡調査地位置図……………37
図22 出土遺物(倍賀遺跡 2017-2)……………15		図68 断面柱状図(平田遺跡 2018-1)……………37
図23 平断面図(倍賀遺跡 2017-2)……………15		図69 断面柱状図(目垣遺跡 2018-2)……………38
図24 郡遺跡調査地位置図……………16		図70 トレンチ配置図・遺構配置図(千提寺菱ヶ谷遺跡 2018-1)……………39
図25 調査区配置図(郡遺跡 2018-2)……………16		
図26 平断面図(郡遺跡 2018-2)……………17		
図27 出土遺物(郡遺跡 2018-2)……………17		
図28 穂積廃寺跡・郡遺跡・三島街道調査地位置図……………18		

# 写真図版目次

図版1 茨木遺跡	図版3 倍賀遺跡	図版5 西国街道・中条小学校遺跡
図版2 春日遺跡	図版4 郡遺跡	図版6 千提寺菱ヶ谷遺跡

# 第1章 地理・歴史的環境

## 第1節 地理的環境

茨木市は、大阪府の北部に位置し、南北 17.05km、東西 10.07kmと南北に長く、東西に短い形で市域を形成しており、北は京都府亀岡市、東は高槻市、南は摂津市、西は吹田市・箕面市・豊能郡豊野町に接している。市域は、北東―南西方向に走る有馬―高槻構造線によって、大きく南北二つに区分される。北半部はおおむね標高 300m 前後の秩父古生層系の岩石により構成される北摂山地と、そこから派生する丘陵部からなる。南半部は、西側に標高 50～100m 前後の前期洪積層の隆起地形の一つである大阪層群で形成された千里丘陵が南北に伸び、東側に北摂山地を源とする安威川・佐保川・茨木川等によって形成された沖積層からなる三島平野が広がっている。



図1 茨木市地質図 (木庭 2012)

## 第2節 歴史的環境

茨木市域において、旧石器時代の痕跡を示すものは周辺地域に比べ希薄である。太田遺跡から国府型ナイフ形石器や剥片類が採集されたほか、宿久庄・郡遺跡や佐保川流域からナイフ形石器や尖頭器などが採集されている。

縄文時代後期になると、太田・西福井・初田遺跡などが丘陵部に見られるようになる。縄文時代晩期には、耳原遺跡から土器棺墓が 16 基、牟礼遺跡から土器・自然流路・井堰・水田跡が出土しており、当時の生活様式を垣間見ることが出来る。

弥生時代になると、水稻耕作をはじめとする弥生文化が急速に広がり、それにつれ遺跡数も増加する。弥生時代前期は、東奈良・耳原・牟礼など縄文晩期から続く遺跡のほかにも、目垣・郡・倍賀遺跡などに集落が形成される。なかでも、東奈良遺跡では環濠を幾重にもめぐらせた集落を形成しており、住居跡とみられる柱穴や土器類・石器類・木製品などの遺物が非常に多く出土している。また、国の重要文化財に指定されている石製銅鐸鑄型、銅戈・ガラス製品の鑄型、鞆の羽口などの鑄造関連遺物が出土しており、集落内に高い鑄造技術をもった集団が存在していたものと推測される。弥生時代中期になると、遺跡は主要河川の両岸や丘陵部・山地にまで広がり、中条小学校遺跡や中河原・太田・溝咋・春日遺跡、高地性集落の石堂ヶ丘遺跡などが出現する。弥生時代後期には、宿久庄・安威・総持寺遺跡等も出現する。

古墳時代に入ると、市域各所で様々な古墳が築造されるようになる。古墳時代前期には、紫金山古墳・將軍山古墳が相次いで築造される。ともに後円部に竪穴式石室を持つ全長 100m を超す前方後円墳で

ある。古墳時代中期になると、三島地域最大級である太田茶臼山古墳が造営される。全長 226 m、後円部径 138m の前方後円墳であり、現在は宮内庁により「三嶋藍野陵」として治定されている。古墳時代後期には横穴式石室を主体とする青松塚古墳・南塚古墳・海北塚古墳・耳原古墳等が築造される。また、安威古墳群・將軍山古墳群・新屋古墳群・長ヶ淵古墳群などの群集墳も認められる。古墳時代の集落遺跡としては、東奈良遺跡・中条小学校遺跡・春日遺跡・倍積遺跡・郡遺跡・安威遺跡・総持寺遺跡等があり、安威遺跡からは朝鮮半島由来の遺物・遺構が多く出土していることから、この時代に渡来人との密接な交流があったことが推測される。

奈良時代に入ると、茨木市域とその周辺は島下郡と呼ばれるようになり、その郡衙が現在の「郡」付近にあったと推測されている。7 世紀後半ごろには太田廃寺・穂積廃寺・三宅廃寺などの寺院が建立され、太田廃寺からは、塔心礎とその内部に納められた舍利容器一具などが発見された。9 世紀以降においても、総持寺や忍頂寺をはじめとする寺院が市域各地に建立される。また、いわゆる延喜式神名帳には島下郡に 13 社もの神社が規定されており、そのうち 10 社が現在の茨木市域に所在している。都から大宰府へと向かう山陽道、難波方面へと向かう三島路が交わる地点にある茨木市域は、政治・文化・交通の要所であったといえる。

中世の遺跡としては、東奈良・玉櫛遺跡などの集落遺跡と、茨木城・福井城・安威城などの城郭遺跡がある。15 世紀に築城された茨木城は、徳川家康による一国一城令により廃城となるまでおよそ 1 世紀半の間存続した。廃城後も町は在郷町として栄え、現在の茨木市中心部の礎となっている。

西国街道沿いに位置する郡山宿本陣は「椿の本陣」とも呼ばれ、江戸時代には西国大名たちの参勤交代にも利用された。現存する建物は国史跡に指定されている。

市域北部の集落である千提寺・下音羽は、「聖フランシスコ・ザビエル像」をはじめとするキリシタン遺物がまとまって発見された地として著名であり、高山右近によりキリシタン信仰がもたらされたと考えられている。禁教令下の江戸時代を通じて密かに受け継がれてきたため、その存在が明らかになるのは 20 世紀に入ってからである。本書所収の千提寺菱ヶ谷遺跡や新名神高速道路建設工事に伴う一連の発掘調査およびキリシタン遺物等の研究成果をもとに、この地のキリシタン信仰への理解がさらに進むことが期待される。

〔引用文献〕

木庭元晴 2012 「基盤地質」『新修茨木市史』 第一巻通史 I 茨木市

〔参考文献〕

茨木市史編さん委員会 2012 『新修 茨木市史』 第一巻通史 I 茨木市

茨木市教育委員会 1998 『茨木の史跡』

茨木市教育委員会 2005 『郡遺跡発掘調査概要報告書』

公益財団法人大阪府文化財センター 2015 『千提寺西遺跡 日奈戸遺跡 千提寺市阪遺跡 千提寺クルス山遺跡』



## 第2章 平成30年度調査地一覧

※a～lは、平成30年1月～3月期（平成29年度）に実施したものである。

No.	遺跡名	調査地	調査期間	面積	担当者	内容
a	中穂積遺跡・三島街道2017-1	中穂積二丁目	20180110	6㎡	木村	土坑1基を検出。
b	春日遺跡2017-3	春日三丁目	20180111	9㎡	富田	ビット9基・落ち込みを検出。土師器・須恵器・瓦器が出土。
c	春日遺跡2017-4	春日三丁目	20180112	7.5㎡	富田	ビット7基・溝1条を検出。土師器・須恵器が出土。
d	茨木遺跡2017-8	大手町	20180118	6㎡	木村	土師器・須恵器が出土。
e	春日遺跡2017-5	春日三丁目	20180119	7.5㎡	富田	遺構・遺物なし。
f	茨木遺跡2017-9	宮元町	20180122	6㎡	木村	遺構・遺物なし。
g	牟礼遺跡2017-8	中津町	20180216	6㎡	富田	遺構・遺物なし。
h	東奈良遺跡2017-10	天王一丁目	20180227	6㎡	木村	遺構・遺物なし。
i	東奈良遺跡2017-11	沢良宜西二丁目	20180302	6.25㎡	富田	遺構・遺物なし。
j	春日遺跡2017-6	春日三丁目	20180312	5㎡	富田・宮西	遺構・遺物なし。
k	西方浄土寺跡2017-3	真砂一丁目	20180323	6㎡	木村	土師器が出土。
l	茨木遺跡2017-14	宮元町	20180326～0327	13.5㎡	富田	ビット10基・溝1条・落ち込みを検出。土師器・須恵器・瓦器が出土。
1	総持寺遺跡2018-1	三島丘一丁目	20180406	5.5㎡	富田	遺構・遺物なし。
2	西国街道2018-1	宿川原町	20180426	9㎡	高村	土坑3基を検出。土師器・陶磁器が出土。
3	倍賀遺跡2018-2	春日五丁目	20180508～0509	9㎡	富田・宮西	ビット7基・溝2条を検出。土師器・須恵器・瓦器が出土。
4	春日遺跡2018-1	春日五丁目	20180514	9㎡	高村	土師器・須恵器が出土。
5	玉櫛遺跡2018-1	真砂一丁目	20180515	9㎡	濱田・坂田	遺構・遺物なし。
6	玉櫛遺跡2018-2	真砂一丁目	20180516	9㎡	濱田・坂田	土師器・瓦器が出土。
7	春日遺跡2018-2	上穂東町	20180618～0619	4㎡	富田・宮西	ビット1基を検出。土師器・須恵器が出土。
8	平田遺跡2018-1	平田二丁目	20180622	4㎡	正岡	遺構・遺物なし。
9	玉櫛遺跡2018-3	玉櫛二丁目	20180710	6.3㎡	富田	遺構・遺物なし。
10	松ヶ本北遺跡2018-1	松ヶ本町	20180712	6.25㎡	富田	遺構・遺物なし。
11	中条小学校遺跡2018-4	奈良町	20180718	4㎡	高村	ビット6基・土坑2基を検出。土師器・須恵器が出土。
12	郡遺跡2018-2	畑田町	20180731～0801	14㎡	富田	竪穴建物1棟・ビット9基・土坑1基・溝3条を検出。弥生土器・土師器・須恵器・瓦器が出土。
13	中条小学校遺跡2018-5	東中条町	20180809	6.25㎡	富田	遺構・遺物なし。
14	宿久庄遺跡2018-1	豊川一丁目	20180829	6㎡	木村	井戸1基を検出。土師器が出土。
15	目垣遺跡2018-2	目垣二丁目	20180918	6.25㎡	富田	土師器・須恵器が出土。
16	太田遺跡2018-2	太田一丁目	20181002	6㎡	坂田・宮西	遺構・遺物なし。
17	茨木遺跡2018-2	新庄町	20181005	6㎡	木村	土坑1基・溝1条を検出。
18	穂積廃寺跡・郡遺跡・三島街道2018-1	上穂積三丁目	20181009	6㎡	木村	遺構・遺物なし。
19	上中条遺跡2018-1	上中条二丁目	20181011	6㎡	坂田・宮西	遺構・遺物なし。
20	穂積廃寺跡・三島街道2018-1	上穂積二丁目	20181022	6㎡	木村・宮西	遺構・遺物なし。
21	東奈良遺跡2018-4	沢良宜西一丁目	20181025	9㎡	高村	遺構・遺物なし。
22	太田北遺跡・西国街道2018-1	太田三丁目	20181126	6㎡	木村	遺構・遺物なし。
23	牟礼遺跡2018-4	舟木町	20181205	9㎡	坂田	遺構・遺物なし。
24	太田遺跡・西国街道2018-1	太田一丁目	20181207	6㎡	木村	土師器・須恵器が出土。
25	玉櫛遺跡2018-4	真砂一丁目	20181212	4㎡	木村	遺構・遺物なし。
26	常楽寺跡2018-1	蔵垣内三丁目	20181213	6㎡	木村	溝1条を検出。土師器が出土。
27	千提寺菱ヶ谷遺跡2017-1	大字千提寺	20171121～20180331	53㎡	坂田	土坑を検出。人骨が出土。
	千提寺菱ヶ谷遺跡2018-1	大字千提寺	20180514～20190331	51.89㎡	坂田・富田	土坑を検出。人骨が出土。

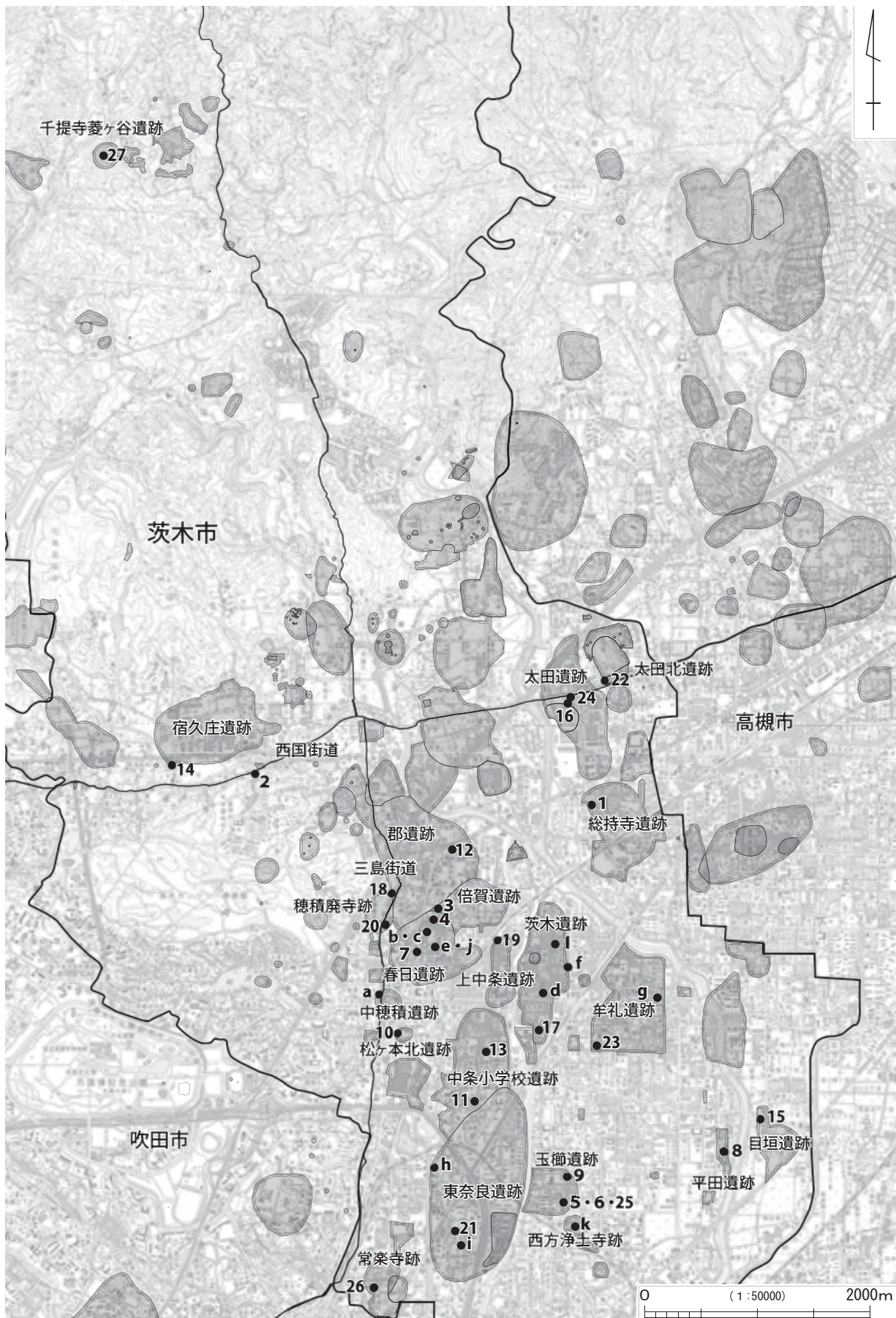


図2 平成30年度発掘調査地位置図 (アルファベット・アラビア数字は前頁No.と対応する)

# 第3章 調査の成果

## 第1節 茨木遺跡・上中条遺跡

### 1. 茨木遺跡 2017-8 (図3・4)

調査地 大手町1730-5

調査面積 6㎡

調査期間 平成30年1月18日

調査担当 木村健明

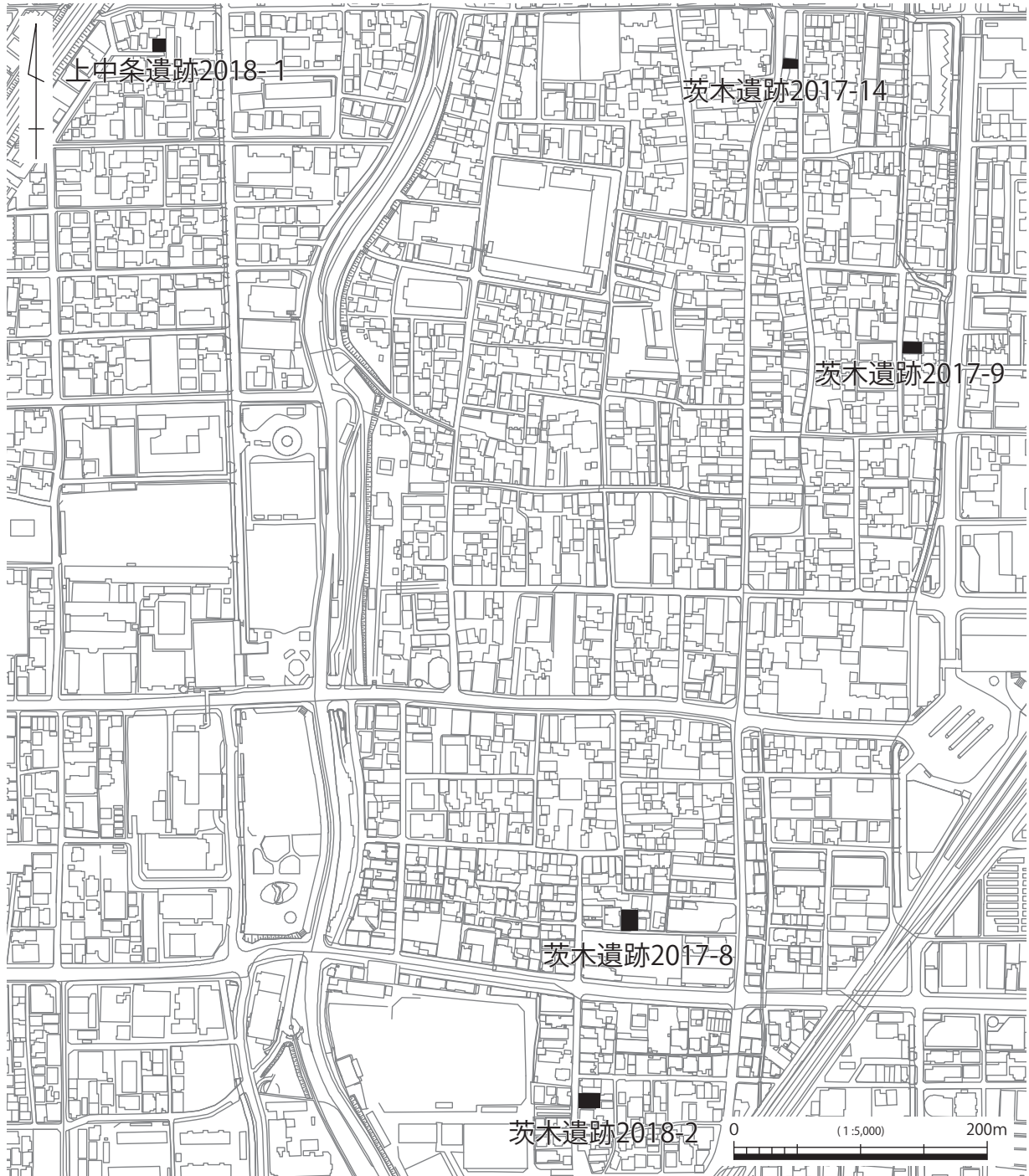


図3 茨木遺跡・上中条遺跡調査地位置図

はじめに 大手町において計画された個人住宅の建築に伴って、2m × 3m の調査区を設定し確認調査を行った。

基本層序 層序は、0-1a層 盛土（層厚 0.6m）、1-1a層 黄褐色粘質シルトと灰褐色粗砂混じり粘質シルト（層厚 0.05m）、2-1a層 灰黄褐色粘質シルト（層厚 0.15m）、2-2a層 灰褐色粘質シルト（層厚 0.05m）、3-1a層 灰褐色粗砂混じり粘質シルト（層厚 0.15m）、4-1b層 灰白色粗砂（層厚 0.05m）、4-2b層 灰色粗砂～礫（径 3 cm 大を含む・層厚 0.95m 以上）である。

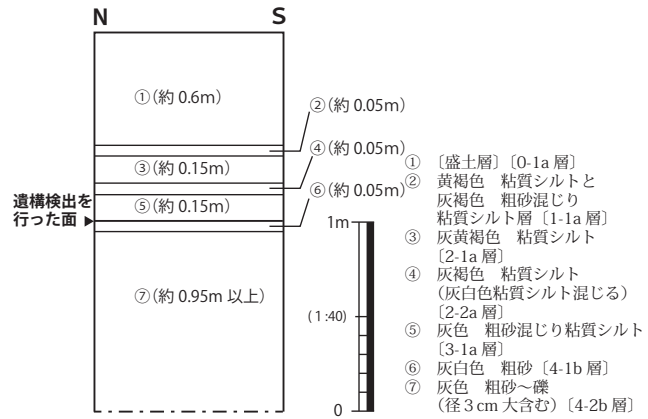


図4 断面柱状図（茨木遺跡 2017-8）

4-1b層上面で遺構検出を行ったが、明瞭な遺構を確認することはできなかったため、断ち割りを行った。その結果、礫層が 0.95 m 以上続くことを確認したことから、埋没流路と判断した。

遺物は土師器・須恵器が流路から出土した。磨滅しており、上流から流されてきたものと考えられる。

## 2. 茨木遺跡 2017-9 (図 3・5)

調査地 宮元町1329の一部

調査面積 6㎡

調査期間 平成30年1月22日

調査担当 木村健明

はじめに 宮元町において計画された個人住宅の建設に伴って、2m × 3m の調査区を設定し確認調査を行った。

基本層序 層序は、0-1a層 盛土（層厚 0.5m）、1-1a層 灰黄褐色粗砂混じり粘質シルト（層厚 0.2m）、2-1b層 灰褐色粗砂（層厚 0.1m）、2-2b層 灰褐色微砂混じり粘質シルト（層厚 0.2m）、3-1b層 褐色粗砂（層厚 0.3～0.5 m）、4-1b層 灰色粗砂混じり粘質シルト（層厚 0.1m）、4-2b層 黄褐色粘質シルト（鉄分沈着・層厚 0.2m）、4-3b層 灰色微砂（層厚 0.1m）、4-4b層 灰色粘土（層厚 0.1m 以上）である。

2-2b層及び 4-4b層上面で遺構検出を行ったが、明瞭な遺構を確認することはできなかった。ただし、壁面観察では、盛土直下で炭化物・焼土を多く含む落ち込みと灰色粗砂と青灰色粗砂を埋土とする落ち込みを確認した。

前者は、茨木遺跡内で多く確認されているが、近代のものと考えられる。

後者は、壁面清掃時に一部崩落し、竹筒が埋められていることを確認した。敷地内での位置は敷地の南端から 2m 北に入った地点である。これまでの茨木遺跡での調査において確認されている近世の竹管水道と考えられる。

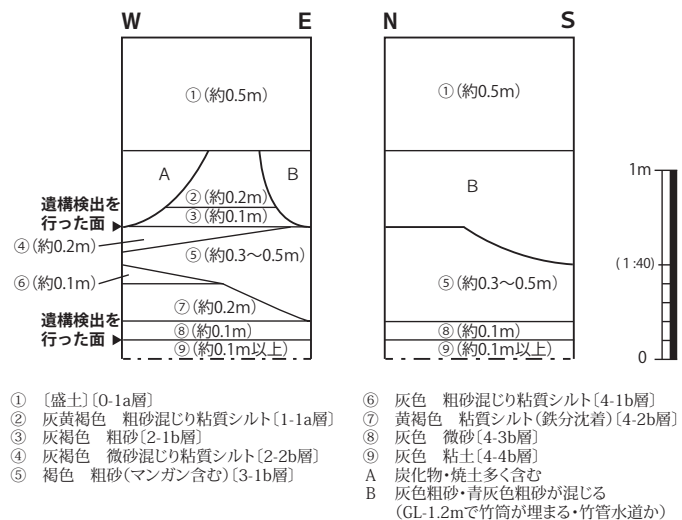


図5 断面柱状図（茨木遺跡 2017-9）

### 3. 茨木遺跡 2017-14 (図3・6・7、図版1)

調査地 宮元町20-3の一部

調査面積 13.5㎡

調査期間 平成30年3月26日～3月27日

調査担当 富田卓見

はじめに 宮元町において計画された個人住宅の建築に伴い、建物建築予定範囲内に調査区を設定し、発掘調査を実施した。今次調査地の現況地盤高は、西に接する道路面から東に接する道路面へ下り傾斜となっており、その比高差は約0.3mである。

基本層序 基本層序は5層に大別でき、0層：盛土・攪乱、1層：耕土層、2層：ベース土層、3層：水成層、4層：水成層の構成である。平面検出は、現地表面（以下、GLという。）－0.9mの2層上面にて実施した。

遺構・遺物 今回確認した遺構は、溝1条、落ち込み1箇所、ピット10基である。各遺構内からの出土遺物がわずかであるため、時期については不明な点が多い。1溝は、幅0.9m、長さ2.8m以上、深さ0.2mを測り、北東から西方向へ「く」の字にのびている。遺構内からは土師器皿と思われる細片が認められた。8ピットは、径0.25m、深さ0.17mを測り、鎌倉時代に比定される瓦器碗の細片が出土した。

まとめ 当該地周辺では、これまで断続的に調査が実施されている。今回の調査によって当該地西隣に所在し文禄2年（1593年）に開基したとされる妙徳寺の開基（茨木市・茨木市教育委員会 1989）以前にも集落が営まれていたことを確認できたのは大きな成果といえる。

〔参考文献〕

茨木市・茨木市教育委員会 1989『わがまち茨木』—神社・仏閣編—

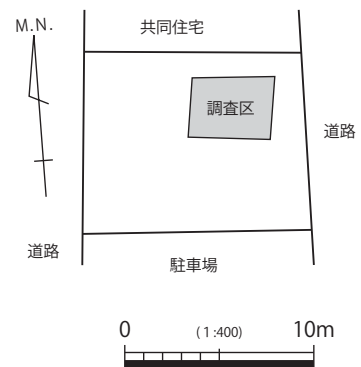


図6 調査区配置図  
(茨木遺跡 2017-14)

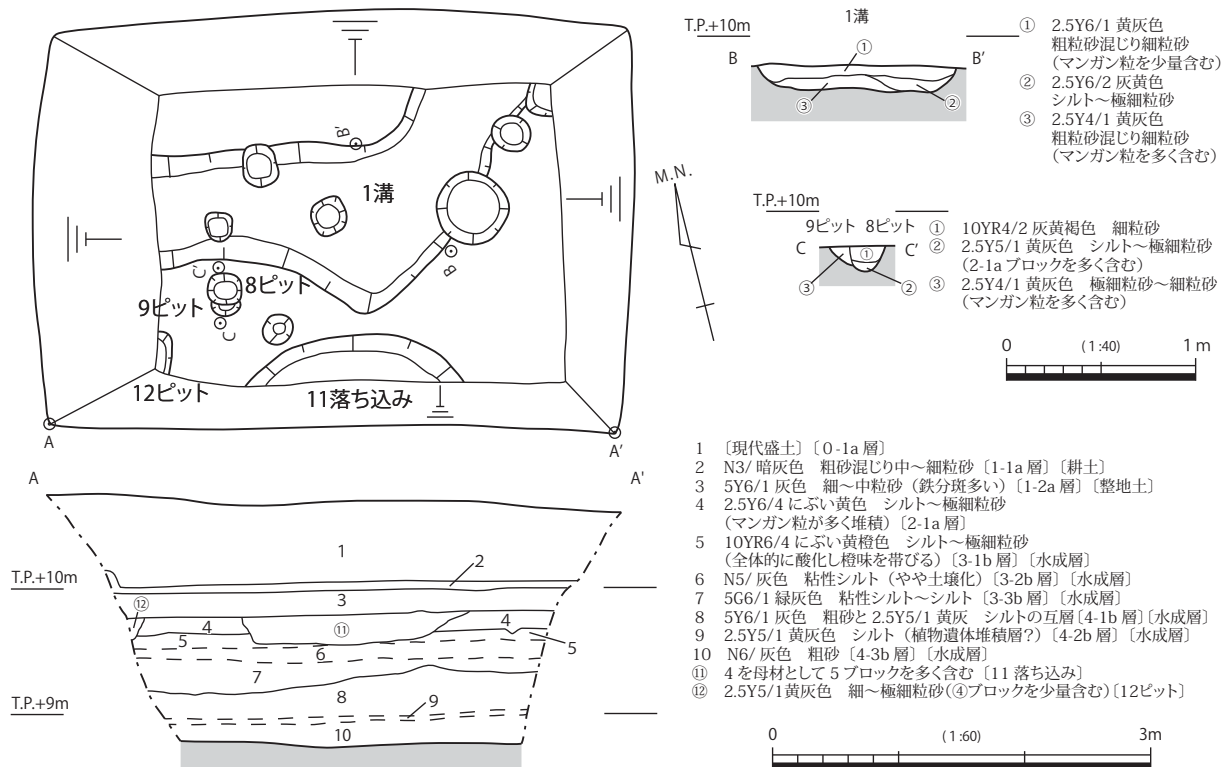


図7 平断面図 (茨木遺跡 2017-14)

#### 4. 茨木遺跡 2018-2 (図3・8)

調査地 新庄町1747-1

調査面積 6㎡

調査期間 平成30年10月5日

調査担当 木村健明

はじめに 新庄町において計画された個人住宅の建築に伴って、2m × 3m の調査区を設定し確認調査を行った。

基本層序 層序は、0-1a層 盛土層（層厚 0.8m）、1-1a層 灰黄褐色粗砂混じり粘質シルト層（層厚 0.2m）、2-1a層 灰白色粘土層（層厚 0.25m）、3-1a層 灰色微砂混じり粘質シルト層（層厚 0.2m）、3-2a層 灰色粘質シルト混じり粗砂層（層厚 0.1m）、4-1b層 灰色粘土層（層厚 0.1m）、4-2b層 灰黄色微砂層（層厚 0.1m）、5-1b層 灰色粗砂～礫層（層厚 0.75m 以上）である。

遺構 2-1a層上面で遺構検出を行い、溝1条と土坑1基を検出した。いずれからも遺物は出土していない。西方50mに位置する茨木高校建設時に大阪府教育委員会によって行われた新庄遺跡の調査では、弥生・古墳時代の遺構面が確認されており、今回の調査地にも広がっている可能性が考えられた。そのため、これらの遺構については写真での記録に留めた。結果的には、下層は砂を主体とする層を確認したのみであり、弥生・古墳時代の遺構・包含層などは確認することができなかった。

【参考文献】

大阪府教育委員会 1996 『新庄遺跡』

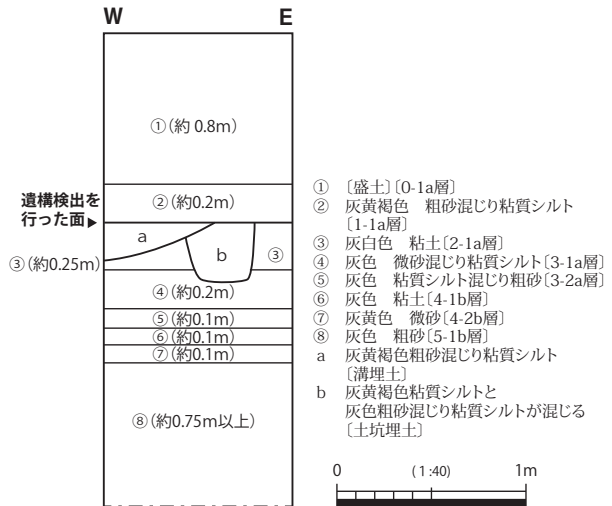


図8 断面柱状図（茨木遺跡 2018-2）

#### 5. 上中条遺跡 2018-1 (図3・9)

調査地 上中条二丁目372-1

調査面積 6㎡

調査期間 平成30年10月11日

調査担当 宮西貴史・坂田典彦

はじめに 上中条二丁目において計画された個人住宅の建築に伴い、建築予定地内に2m × 3m の調査区を1箇所設定して確認調査を行った。調査地の現況地盤は西面する道路面とほぼ同じである。

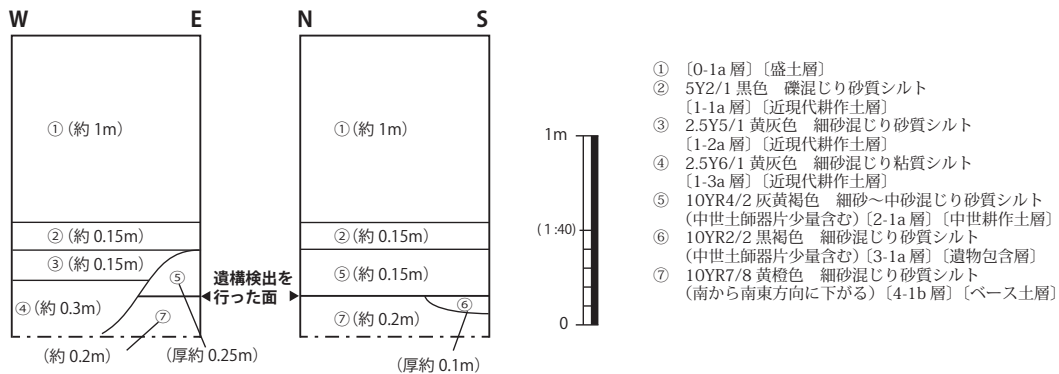


図9 断面柱状図（上中条遺跡 2018-1）

**基本層序** 層序は上層から、0-1a層（盛土）、1-1a層（黒色礫混じり砂質シルト・近現代耕作土層）、1-2a層（黄灰色細砂混じり砂質シルト・近現代耕作土層）、1-3a層（黄灰色細砂混じり砂質シルト・近現代耕作土層）、2-1a層（灰黄褐色細砂～中砂混じり砂質シルト・中世土師器片少量含む・中世耕作土層）、3-1a層（黒褐色細砂混じり砂質シルト・中世土師器片少量含む・遺物包含層）、4-1b層（黄橙色細砂混じり砂質シルト・南から南東方向に下がる・ベース土層）である。3-1a層は2-1a層堆積時に削平を受けており、東壁の一部でのみ確認できた。落ち込み状の遺構とも推察されたが、掘り方が不明瞭なことから、南～南東方向に向かって緩やかに下がる4-1b層に堆積した包含層と判断した。

**遺構・遺物** 遺構検出は4-1b層上面にて実施したが、西半は近現代の掘り込みによって攪乱を受けており、遺構は認められなかった。遺物は2-1a層と3-1a層から中世の土師器片が少量出土した。

## 第2節 春日遺跡・倍賀遺跡

### 1. 春日遺跡 2017-3（図10～13、図版2）

**調査地** 春日三丁目196-6の一部

**調査面積** 9㎡

**調査期間** 平成30年1月11日

**調査担当** 富田卓見

**はじめに** 春日三丁目において計画された個人住宅の建築に伴い、建築予定範囲内に1.5m×6mの東西方向に長い調査区を設定し、発掘調査を実施した。現況地盤高は、北東に接する道路面とほぼ同じである。



図10 春日遺跡・倍賀遺跡調査地位置図

第3章 調査の成果

**基本層序** 基本層序は4層に大別でき、上層より0層：現代盛土、1層：旧耕土・整地土、2層：土壌化層（遺物包含層）、3層：地山層である。2層は、調査区東端でわずかに残存しているのみであるが、層中より須恵器・土師器が出土した。遺構検出はGL-1mの3層上面にて実施し、遺構が認められた。

**遺構・遺物** 今回確認した遺構は、ピット9基、落ち込み1箇所である。その中でも、9ピットの土層断面観察では、柱痕が明瞭に認められた。10落ち込みは、当初は遺物包含層と思われたが、調査区東端にて上端の一部を検出したことから、落ち込みと判断した。

遺物は、図13に図示可能なものを示した。1・2は土師器小皿で、2・9ピットからそれぞれ出土した。3～11は10落ち込みから出土した土器である。3～8は土師器皿、9は土師器鍋もしくは椀、10は黒色土器、11は瓦器椀である。10は両黒の黒色土器で、11世紀代の所産と思われる。11の瓦器椀は和泉型で、11世紀前半頃の所産であろう。

**まとめ** 当該地における中世の生活の痕跡を確認した。10落ち込みについては、この後に述べる東隣地での調査（春日遺跡2017-4）で検出した1溝が、埋土状況や上端の方向などの様相から、10落ち込みと同一の遺構である可能性も考えられる。

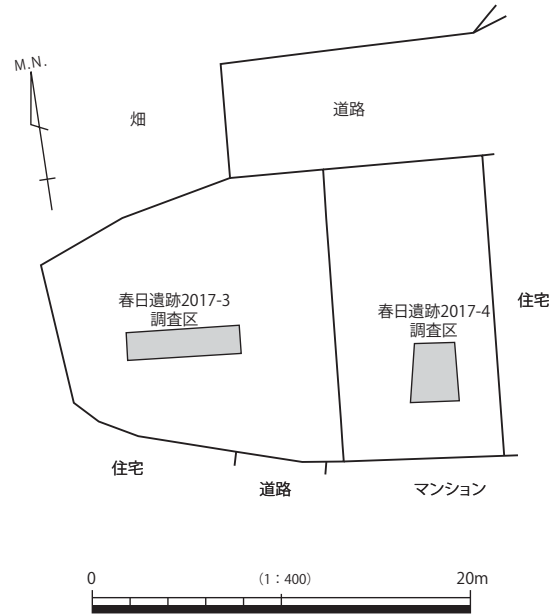
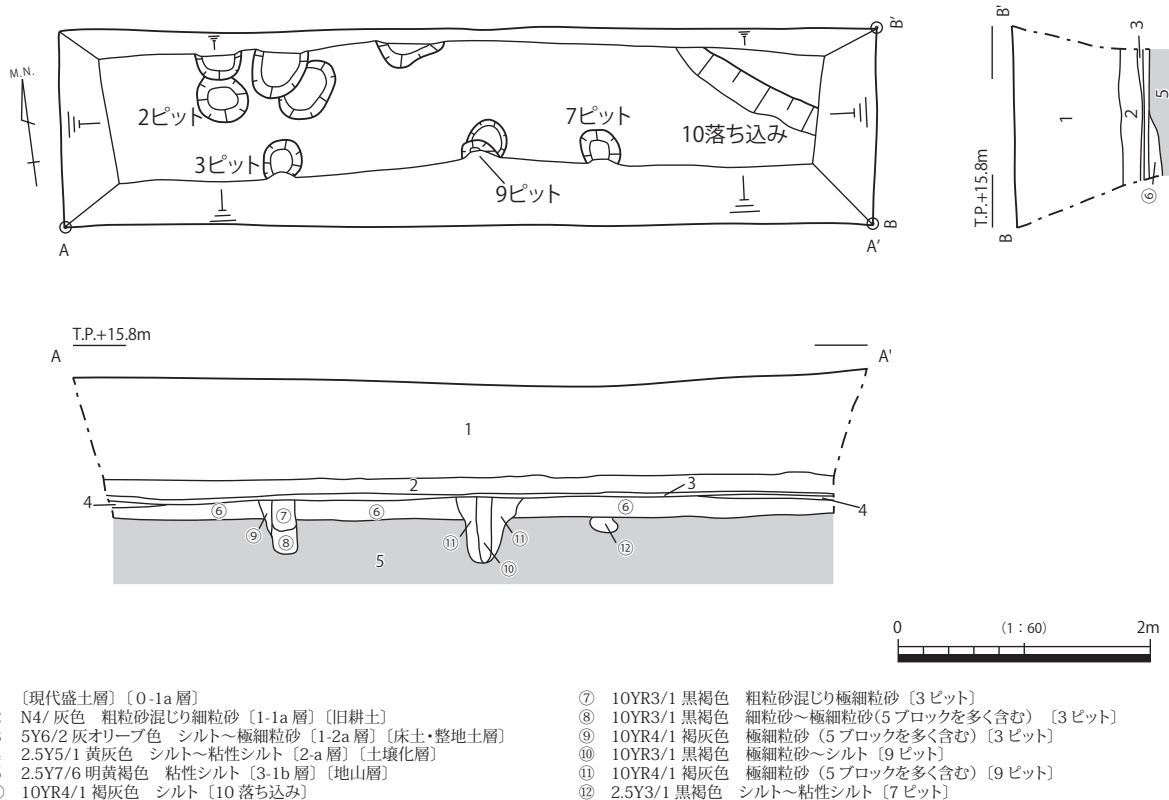


図11 調査区配置図（春日遺跡2017-3・4）



- |   |  |
|---|--|
| 1 〔現代盛土層〕〔0-1a層〕                        | ⑦ 10YR3/1 黒褐色 粗粒砂混じり極細粒砂〔3ピット〕           |
| 2 N4/ 灰色 粗粒砂混じり細粒砂〔1-1a層〕〔旧耕土〕          | ⑧ 10YR3/1 黒褐色 細粒砂～極細粒砂〔5ブロックを多く含む〕〔3ピット〕 |
| 3 5Y6/2 灰オリーブ色 シルト～極細粒砂〔1-2a層〕〔床土・整地土層〕 | ⑨ 10YR4/1 褐灰色 極細粒砂〔5ブロックを多く含む〕〔3ピット〕     |
| 4 2.5Y5/1 黄灰色 シルト～粘性シルト〔2-a層〕〔土壌化層〕     | ⑩ 10YR3/1 黒褐色 極細粒砂～シルト〔9ピット〕             |
| 5 2.5Y7/6 明黄褐色 粘性シルト〔3-1b層〕〔地山層〕        | ⑪ 10YR4/1 褐灰色 極細粒砂〔5ブロックを多く含む〕〔9ピット〕     |
| ⑥ 10YR4/1 褐灰色 シルト〔10落ち込み〕               | ⑫ 2.5Y3/1 黒褐色 シルト～粘性シルト〔7ピット〕            |

図12 平断面図（春日遺跡2017-3）



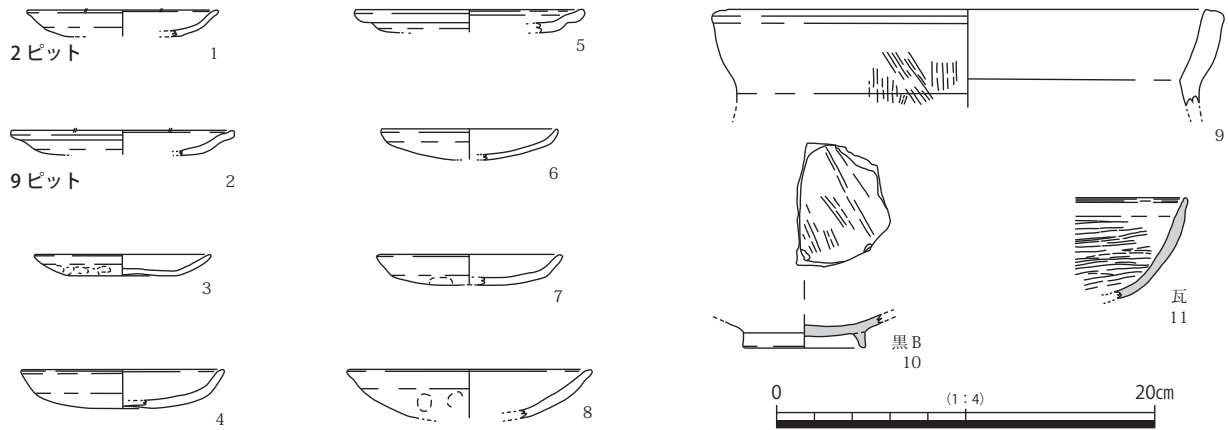


図13 出土遺物（春日遺跡 2017-3）

## 2. 春日遺跡 2017-4 (図10・11・14)

調査地 春日三丁目196-6の一部

調査面積 7.5㎡

調査期間 平成30年1月12日

調査担当 富田卓見

はじめに 春日三丁目において計画された個人住宅の建築に伴い、建築予定範囲内に調査区を設定し、発掘調査を実施した。なお、調査地の現況地盤高は、北に接する道路面とほぼ同じである。

基本層序 基本層序は4層に大別でき、上層より0層：現代盛土、1層：旧耕土・整地土、2層：土壌化層、3層：地山層である。2層は調査区南半にのみわずかに残存していた。検出作業は、GL - 1.15mの3層上面にて実施した。

遺構・遺物 今回確認した遺構は、溝1条・ピット7基である。1溝は、幅0.6m以上、深さ0.1mを測り、北西方向から南東方向にのびている。調査区端部にて一部のみの検出に留まり、全容は不明である。ピットは、平面形が円形もしくは隅丸方形のものがみられた。その多くが建物を構成する柱穴の可能性が考えられるが、今次調査区が狭小であるためその全体像はつかめない。遺物は、2層中から須恵器、土師器の細片が出土した。土師器は小皿で、「て」の字口縁を為すものである。細片であるため、

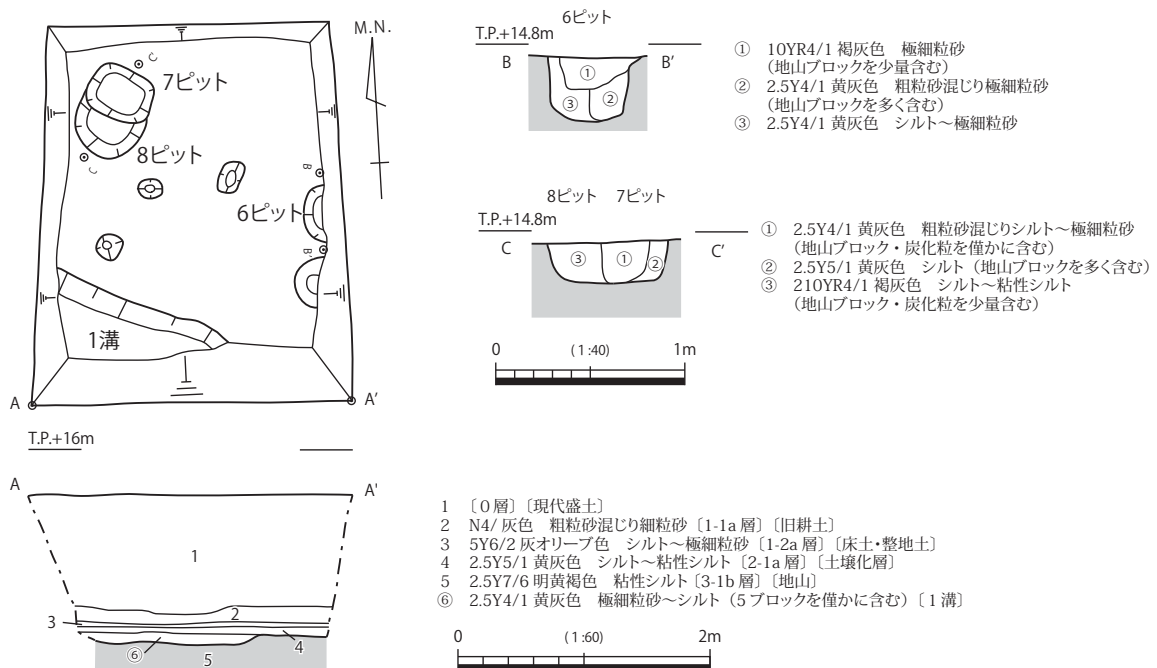


図14 平断面図（春日遺跡 2017-3）

図化しえなかった。

まとめ 前項でも触れているが、西隣地での調査（春日遺跡 2017-3）で検出した10落ち込みが、今回の1溝と同一の遺構である可能性も考えられる。今次調査地の近辺ではこれまで断続的に調査が行われており、GL - 1m 前後の比較的浅い深度にて、弥生～古代・中世にかけての埋蔵文化財が残存していることが確認されている。今次調査においてもそれを追認する結果となり、集落の展開が当地にも及んでいることがわかった。

### 3. 春日遺跡 2017-5（図 10・15）

調査地 春日三丁目120-27

調査期間 平成30年1月19日

はじめに 春日三丁目において計画された個人住宅の建築に伴い、建築予定範囲内に調査区を設定し、発掘調査を実施した。なお、調査地の現況地盤高は、南に接する道路面とほぼ同じである。

基本層序 基本層序は2層に大別でき、上層から0層：盛土・攪乱、1層：砂層（水成堆積？）である。1層については、調査区壁面崩落等の危険性があったため、土色及び土質を記録するのに留まった。

遺構・遺物 埋蔵文化財は認められなかった。

まとめ 今回の調査では、GL - 2.4m までが攪乱という状況であった。

調査面積 7.5㎡

調査担当 富田卓見

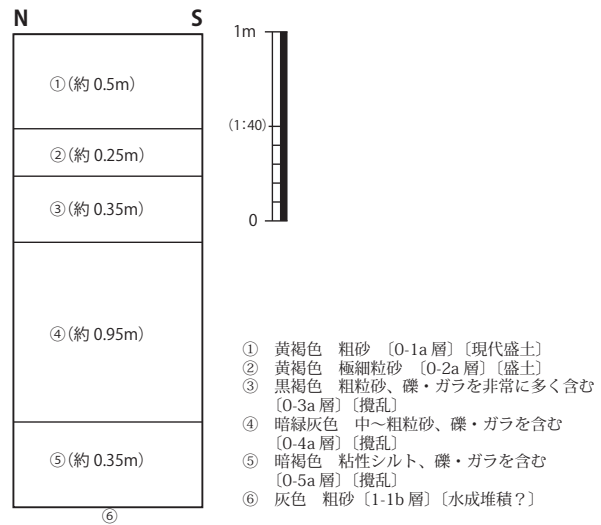


図 15 断面柱状図（春日遺跡 2017-5）

### 4. 春日遺跡 2017-6（図 10・16）

調査地 春日三丁目120-32

調査期間 平成30年3月12日

はじめに 春日三丁目において計画された個人住宅の建築に伴い、申請地内の建物建築予定範囲内に調査区を設定し、発掘調査を実施した。なお、今次調査地の現況地盤高は、東に接する道路面とほぼ同じである。

基本層序 基本層序は2層に大別でき、上層から0層：盛土・攪乱、1層：砂層（水成堆積？）である。1層以下については、調査区壁面の崩落等の危険性があったため、調査を中止するを得ず確認できなかった。

遺構・遺物 GL - 2.3m の範囲において、遺構・遺物等の埋蔵文化財は認められなかった。

調査面積 5㎡

調査担当 富田卓見・宮西貴史

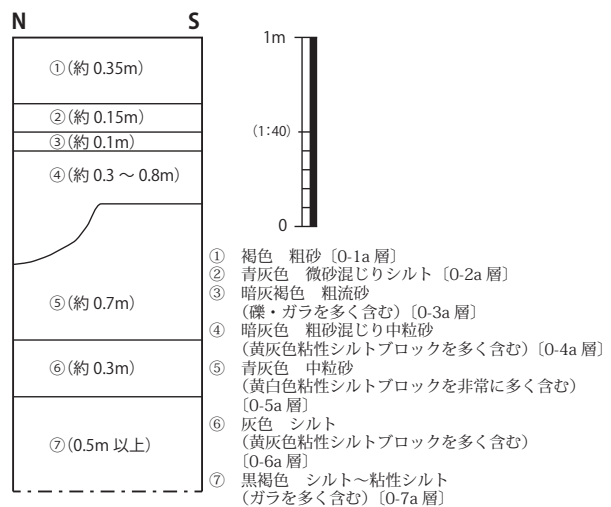


図 16 断面柱状図（春日遺跡 2017-6）

まとめ 隣り合う春日遺跡 2017-4、2017-5 はいずれも GL - 2m 以上が盛土層及び攪乱層であった。この結果は、周辺の既往調査地において GL - 1m 前後で埋蔵文化財が確認されることを考慮すると、今次調査地を含む地点で局所的な地形の改変があったことが想定される。

### 5. 春日遺跡 2018-1 (図 10・17～19)

調査地 春日五丁目81-11

調査面積 9㎡

調査期間 平成30年5月14日

調査担当 高村勇士

はじめに 調査地は春日遺跡の北部に位置し、郡遺跡や倍賀遺跡と近接する。調査地の標高は南面する現況道路とほぼ同じである。調査は、個人住宅建築予定範囲のうち 3m × 3m (9㎡) の調査区を設定し実施した。

基本層序 調査の結果、下記の層序を確認した。

- 0層：現代盛土層 (0-1a層)
- 1層：現代耕作土層 (1-1a層)
- 2層：時期不明耕作土層 (2-1a層・2-2a層)
- 3層：沖積段丘構成層の可能性がある水成層 (3-1b層)

遺構・遺物 遺構は、2-2a層下面でピット5基、不明遺構1基を検出した。不明遺構については検出面より深度が浅く、調査区外に延びていることもあり判然としない。ただし、埋土は3-1b層を母材としたブロック土が多く含まれており、自然地形の落ち込み等ではないと思われる。また、2-2a層最下部 (3-1a層直上) において須恵器片、土師器片を検出している。12は、古墳時代の須恵器無蓋

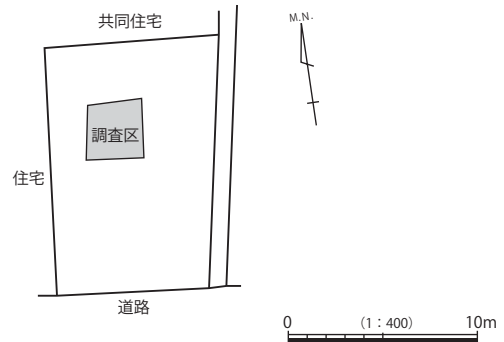


図 17 調査区配置図 (春日遺跡 2017-6)

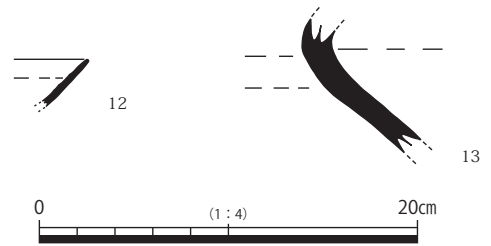
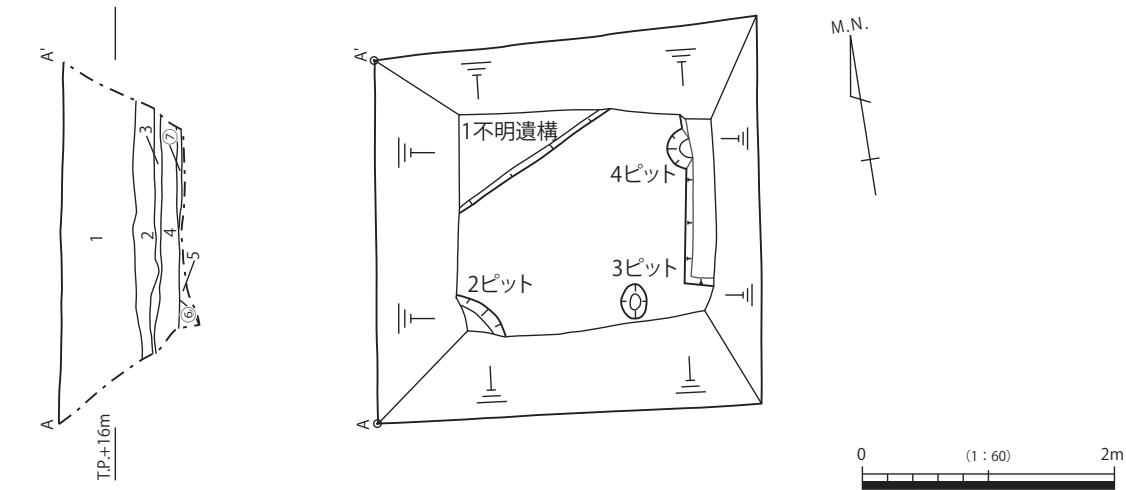


図 18 出土遺物 (春日遺跡 2018-1)



- |   |  |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>1 [0-1a層] [盛土層]</li> <li>2 N4/灰色 粗砂混じり砂質シルト [現代耕作土] [1-1a層]</li> <li>3 10YR6/6 明黄褐色 細砂混じり砂質シルト (上層の影響を受け黄褐色をおびる。しまり良い。淘汰悪い) [2-1a層]</li> <li>4 10YR5/1 褐灰色 細砂混じり砂質シルト (しまり良い。淘汰悪い。土師器片、須恵器片、炭化物粒わずかに含む。鉄分粒多く含む) [包含層] [2-2a層]</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>5 10YR6/6 明黄褐色 細砂～粗砂混じり砂質シルト (しまり良い) [ベース土層] [3-1b層]</li> <li>⑥ 10YR4/1 褐灰色 細砂混じり砂質シルト (径3cm程度のベース土ブロック含む) [2ピット埋土]</li> <li>⑦ 10YR4/1 褐灰色 細砂混じり砂質シルト (ベース土ブロック含む) [1不明遺構埋土]</li> </ul> |
|---|--|

図 19 平断面図 (春日遺跡 2018-1)

高坏の口縁部であろうか。13は、古墳時代の須恵器甕の頸部より肩部片である。この他、須恵器や古代の範疇で捉えることも可能な土師器の細片が出土しているが実測はかなわなかった。

各遺構の時期についても遺物が少なく判然としない。直上層の遺物から古墳時代や古代の遺構が存在してもおかしくないと言える程度であろう。

## 6. 春日遺跡 2018-2 (図 10・20)

調査地 上穂東町140-5

調査面積 4㎡

調査期間 平成30年6月18日・19日

調査担当 富田卓見・宮西貴史

はじめに 上穂東町において計画された個人住宅の建築に伴い、建物建築予定範囲内に1箇所の調査区を設定し調査を実施した。

基本層序 基本層序は3層に大別でき、上層より0層：現代盛土・攪乱、1層：近現代耕土層、2層：土壌化層（遺物包含層）、3層：地山層の構成である。2層は、調査区の東壁際にわずかに残存している程度である。遺構検出は、GL - 0.9mの3層上面にて実施した。

遺構・遺物 遺構は、ピット1基を検出した。径0.2m、深さ0.12mを測る。遺構内から遺物は認められなかった。遺物は、2層中から土師器・須恵器の細片が認められた。

まとめ 今次調査によって、当該地に人の生活の痕跡が認められた。時期については、詳細な年代は不明であるが、出土遺物から古墳時代以降には集落が広がっていたと推測される。

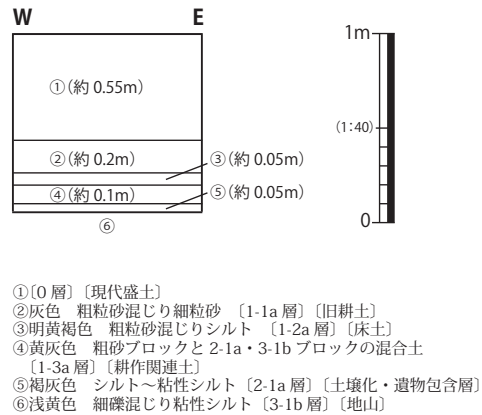


図 20 断面柱状図 (春日遺跡 2018-2)

## 7. 倍賀遺跡 2018-2 (図 10・21 ~ 23、図版 3)

調査地 春日五丁目42-2

調査面積 9㎡

調査期間 平成30年5月8日・9日

調査担当 富田卓見・宮西貴史

はじめに 春日五丁目において計画された個人住宅の建築に伴い、建物建築予定範囲内の中央付近に調査区を設定し、発掘調査を実施した。

基本層序 基本層序は3層に大別でき、上層から0層：現代盛土・攪乱、1層：耕作関連土層、2層：地山層の堆積である。本来堆積していたと思われる遺物包含層は、削平されたものと考えられる。遺構検出は、GL - 0.6mの2層上面にて実施した。

遺構・遺物 溝2条、ピット7基を確認した。1溝は、幅0.94m以上、長さ2.52m以上、深さ0.5mを測り、調査区東壁に平行して南北にのび、北壁付近で西に屈曲する。2溝は、幅0.5m以上、長

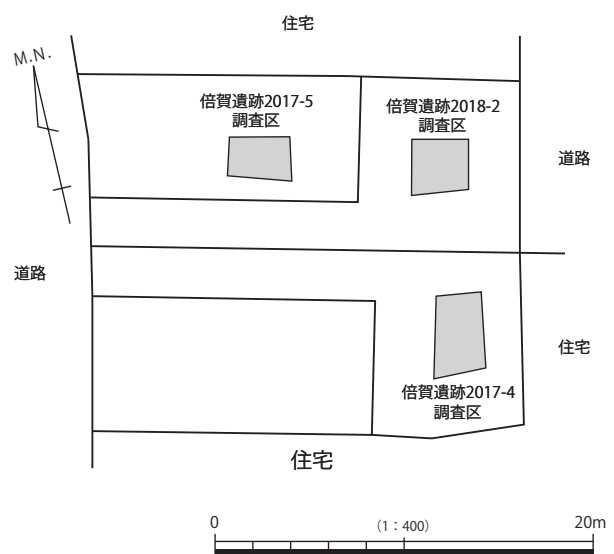


図 21 調査区配置図 (倍賀遺跡 2017-2)

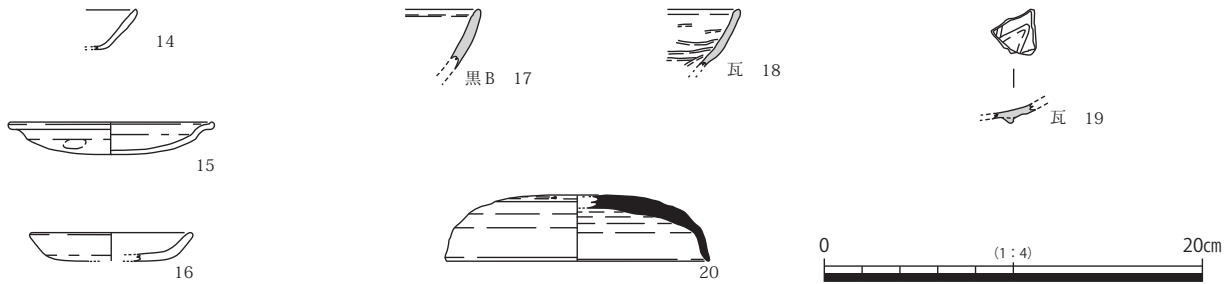


図22 出土遺物（倍賀遺跡 2017-2）

さ 2.14m 以上、深さ 0.2m を測り、西壁に平行して北へのびる。土層断面観察では、この 1、2 溝の  
新旧関係は 1 溝が新しい時期のものである。

遺物は、図 22 に図示可能なものを示した。14～19 が 1 溝、20 が 2 溝から出土したものである。  
14～16 は土師器小皿で、15 は「て」の字口縁を為すものである。17 は黒色土器 B 類碗である。  
18・19 は瓦器碗である。細片であるため不明瞭ではあるが、おそらく和泉型のⅢ -2 期に比定できよう。  
20 は須恵器杯蓋である。TK43 に属する 6 世紀後半頃のものであろう。

まとめ 今回の調査によって、古墳時代後期と中世の遺構を確認した。当該地と同じ敷地内では平成  
29 年（2017 年）度に隣地にて発掘調査（倍賀遺跡 2017-5）を実施しており、GL - 0.7m にて地山  
層とその上面でピット・落ち込みなどの遺構を確認した。この調査では、鳥足文タタキ目をもつ韓式系  
土器の体部片が出土している。また、平成 28 年（2016 年）度を実施した近隣の発掘調査（HKA16-4）  
においても中世の遺構・遺物が確認されている。

〔参考文献〕

茨木市教育委員会 2017 『平成 28 年度茨木市埋蔵文化財発掘調査概報 9』

茨木市教育委員会 2018 『平成 29 年度茨木市埋蔵文化財発掘調査概報』

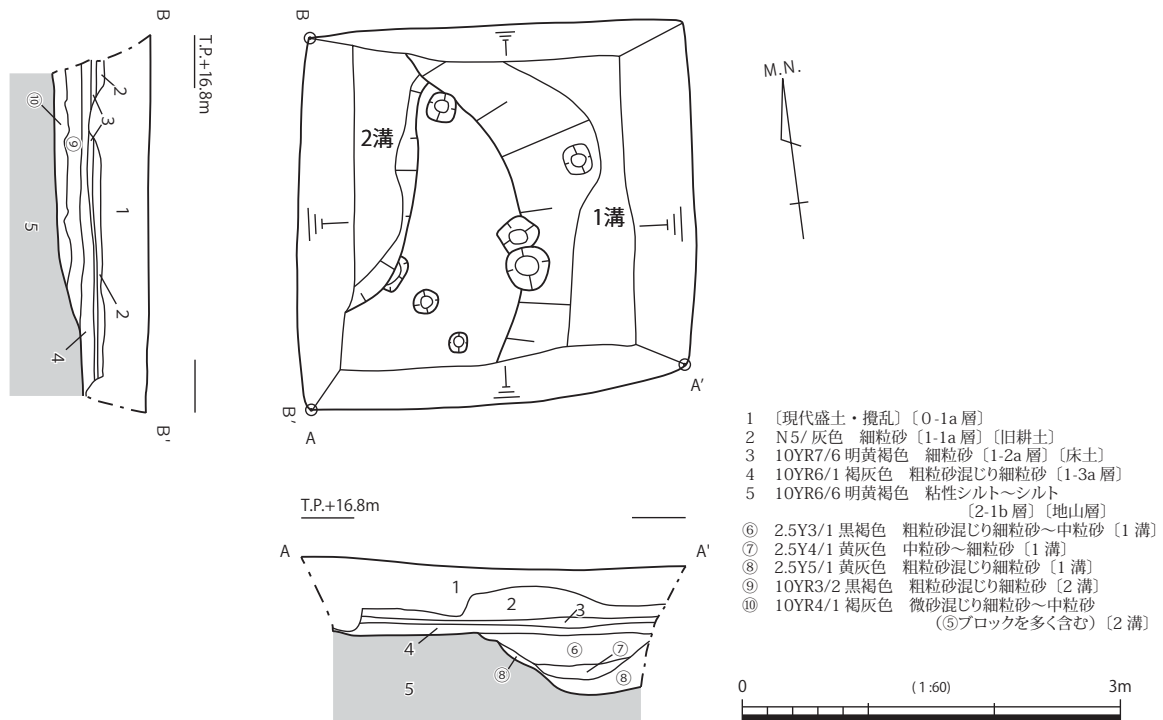


図23 平断面図（倍賀遺跡 2017-2）

### 第3節 郡遺跡・穂積廃寺跡・三島街道

#### 1. 郡遺跡 2018-2 (図 24～27、図版 4)

調査地 畑田町118-4の一部

調査面積 14m<sup>2</sup>

調査期間 平成30年7月31日・8月1日

調査担当 富田卓見

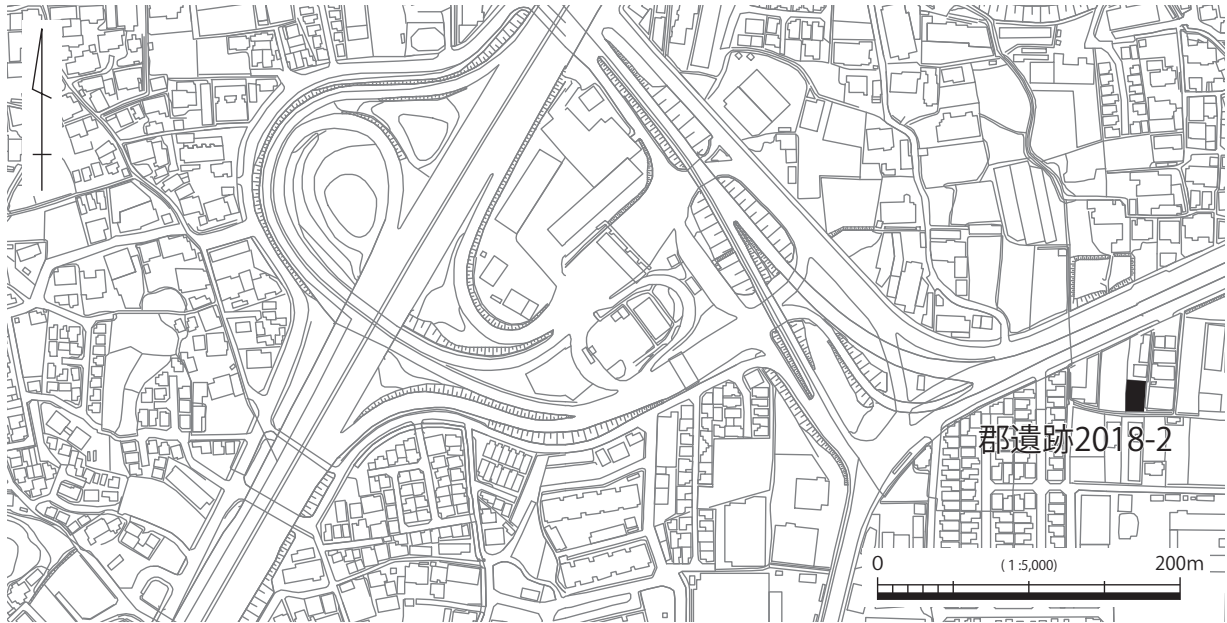


図 24 郡遺跡調査地位置図

はじめに 畑田町において計画された個人住宅の建築に伴い、申請地内の建物建築予定範囲内に調査区を設定し、発掘調査を行った。現況地盤高は、南隣道路面より 0.4m ほど低い。

基本層序 基本層序は 3 層に大別でき、上層より 1 層：現耕土・耕作関連土層、2 層：土壌化層（弥生時代～中世？遺物包含層）、3 層：地山層の構成である。2 層中からは、弥生土器・須恵器・土師器・瓦器が認められた。遺構検出は、GL - 0.55m の 3 層上面にて実施した。

遺構・遺物 今回確認した遺構は、竪穴建物 1 棟、ピット 9 基、土坑 1 基、溝 3 条である。1 竪穴建物は、調査区の西半部にて東辺の一部を検出した。建物範囲は、その大半が調査区外にあるため全容は不明である。建物の向きは、ほぼ南北方向を向く。1 竪穴建物内にて、幅 0.4m 前後・深さ約 0.12m を測る溝が壁沿いにめぐる状況を検出した。また、土層断面観察では、厚さ 0.13m の貼り床と思われる層位が認められた。1 竪穴建物内にて検出した 12 ピットは、土層断面観察にて 1 竪穴建物の貼り床上面からの掘り込みが見られることから、1 竪穴建物に伴う遺構と考えられる。2 溝は、幅 0.6m、長さ 1.8m 以上、深さ 0.11m を測る。溝の向きは、1 竪穴建物の辺に対し平行にのびている。3 溝は、調査区北東部にて検出した。溝の規模は幅 0.4m、長さ 2.4m 以上、深さ 0.2m を測り、平面プランは、北壁から東壁に向かう「く」

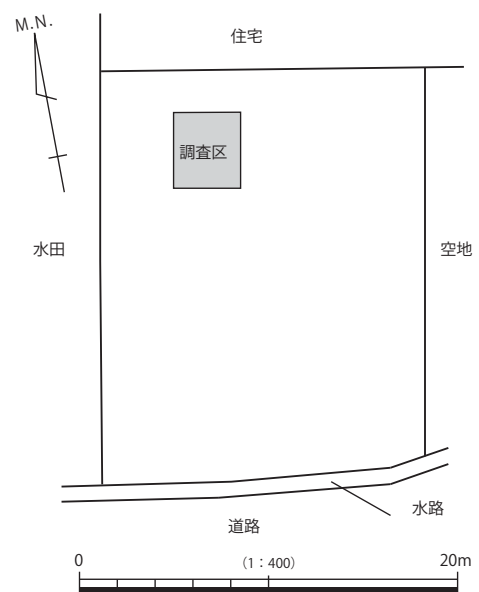


図 25 調査区配置図 (郡遺跡 2018-2)

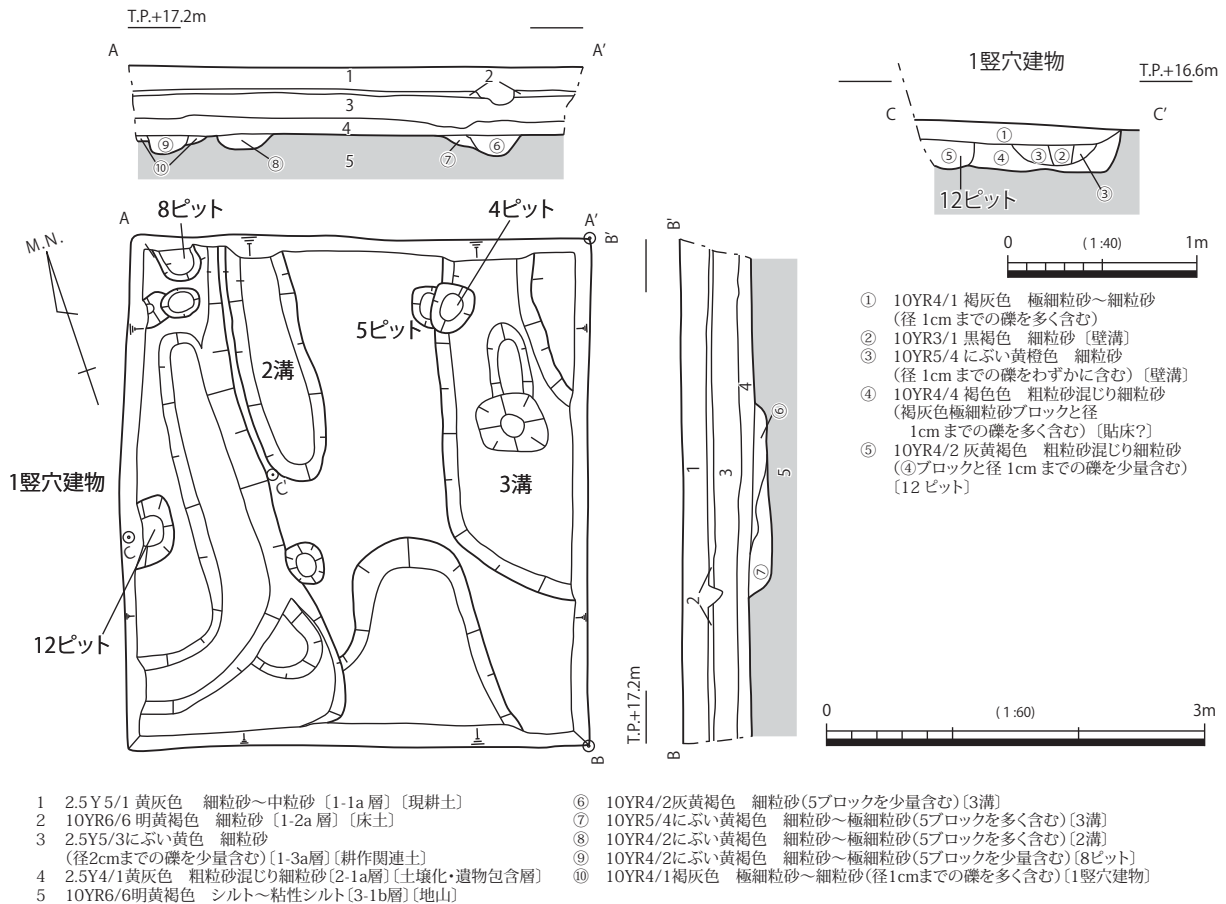


図 26 平断面図 (郡遺跡 2018-2)

の字状を呈する。また、3 溝・4 ピット・5 ピットは重複しており、古いものから 3 溝 > 5 ピット > 4 ピットの順である。

遺物は、21～23が1 竪穴建物、24が2 溝、25・26は遺物包含層 (2-1a層) からそれぞれ出土したものである。24は弥生土器の広口壺の口縁部で、端面に3条の沈線が施されている。22・23は、弥生土器甕の底部である。外面にはタタキ調整痕が見られる。これらはともに弥生時代後期の所産である。24は弥生土器壺の底部で、時期は同じく弥生時代後期であろう。25は須恵器杯蓋で、6世紀前半のものと思われる。26は須恵器高杯脚部である。細片であるため詳細は不明だが、6世紀代の範疇におさまるものと思われる (図 27)。

まとめ 今次調査によって、主に弥生時代後期の生活の痕跡を確認した。これまでの周辺での調査では、弥生時代から古墳時代後期・中世にかけての埋蔵文化財を多く確認している。今次調査地においても同じ状況が追認され、当該期に広範囲にわたって集落が展開していたことが明らかとなった。

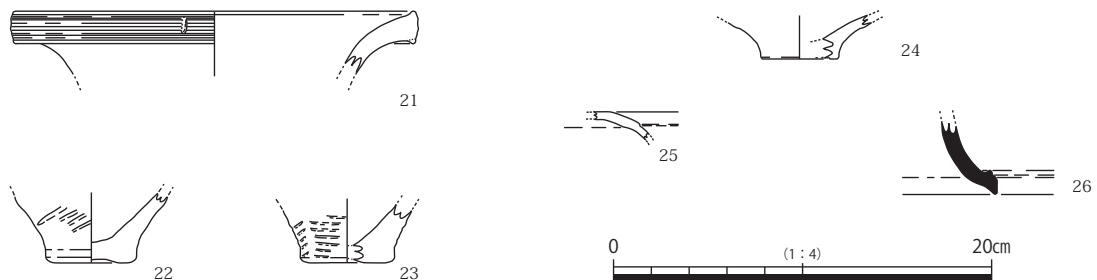


図 27 出土遺物 (郡遺跡 2018-2)

## 2. 穂積廃寺跡・郡遺跡・三島街道 2018-1 (図 28・29)

調査地 上穂積三丁目372-4の一部

調査面積 6㎡

調査期間 平成30年10月9日

調査担当 木村健明



図 28 穂積廃寺跡・郡遺跡・三島街道調査地位置図

はじめに 上穂積三丁目計画された個人住宅の建築に伴って、2m × 3m の調査区を設定し確認調査を行った。

基本層序 層序は、0-1a層 盛土(層厚 0.6m)、1-1a層 耕作土(層厚 0.1m)、2-1a層 灰色・灰オリーブ色粗砂混じり粘質シルト(層厚 0.15m)、3-1a層 明黄褐色・灰色粘土(層厚 0.15m)、4-1a層 灰色粘土(層厚 0.2m)、5-1b層 明黄褐色粘土(地山)である。

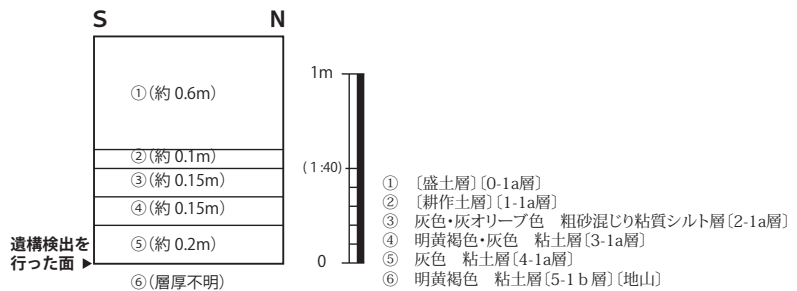


図 29 断面柱状図 (穂積廃寺跡・郡遺跡・三島街道 2018-1)

ト(層厚 0.15m)、3-1a層 明黄褐色・灰色粘土(層厚 0.15m)、4-1a層 灰色粘土(層厚 0.2m)、5-1b層 明黄褐色粘土(地山)である。

5-1b層上面で遺構検出を行ったが、埋蔵文化財は確認できなかった。

## 3. 穂積廃寺跡・三島街道 2018-1 (図 28・30)

調査地 上穂積二丁目186-8・187-4

調査面積 6㎡

調査期間 平成30年10月22日

調査担当 木村健明・宮西貴史

はじめに 上穂積二丁目計画された個人住宅の建築に伴って、2m × 3m の調査区を設定し確認調査を行った。

基本層序 層序は、0-1a層 盛土層(層厚 1.1m)、1-1a層 暗灰色粗砂混じり粘質シルト層(層厚 0.15m・耕作土)、2-1a層 灰白色粗砂混じり粘質シルト層(層厚 0.15m・耕作土)、2-2a層 灰色粘土ににぶい黄色粘土が混じる(層厚 0.25m・耕作土)、3-1b層 灰白色粘土(鉄分粒を含み明黄褐色粘



土が斑状に混じる・層厚0.2m・地山)、3-2b層灰色粘土混じり砂礫層(層厚0.1m・地山)である。

3-1b層上面で遺構検出を行ったが、遺構・遺物は確認できなかった。

まとめ 今回の調査区から南東40m地点で行った穂積廃寺跡2017-2調査で

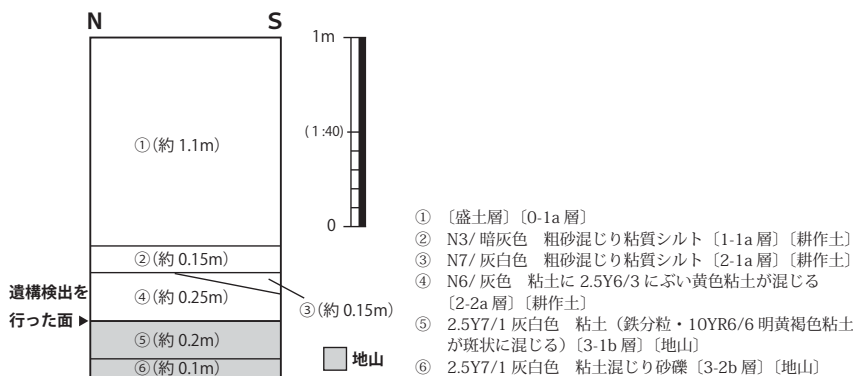


図30 断面柱状図(穂積廃寺跡・三島街道2018-1)

は、掘立柱建物を検出したが、遺物の出土量は極めて少なかった。今回の調査で遺構・遺物が検出できなかったのは、同様の土地利用状況であった可能性も考えられる。そのため、調査を重ねていくことで周辺の遺構分布状況を確認していくことが重要であろう。

## 第4節 宿久庄遺跡・西国街道

### 1. 宿久庄遺跡2018-1(図31～33)

調査地 豊川一丁目824-1、-3、830-5

調査面積 6㎡

調査期間 平成30年8月29日

調査担当 木村健明



図31 宿久庄遺跡・西国街道調査地位置図

はじめに 豊川一丁目において計画された個人住宅の建築に伴って、2m×3mの調査区を設定し、調査を行った。

基本層序 現地表面の標高は、T.P.+38.6mである。層序は上層から0-1a層 盛土層(層厚0.6m)、1-1a層 黄灰色粗砂混じり粘質シルト層(層厚0.2m)、1-2a層 黄灰色粗砂層(層厚0.15m)、2-1a層 にぶい黄橙色粘質シルト層(層厚0.5m)、3-1b層 明黄褐色粘土層(地山・層厚0.2m以上)である。

また、1-1a層から切り込む黄灰色礫混じり粗砂層(a層)と、2-1a層から切り込む暗灰黄色礫混じり粘質シルト層(b層)・明黄褐色粗砂層(c層)を確認した。a層は壁面で確認したのみであり、時

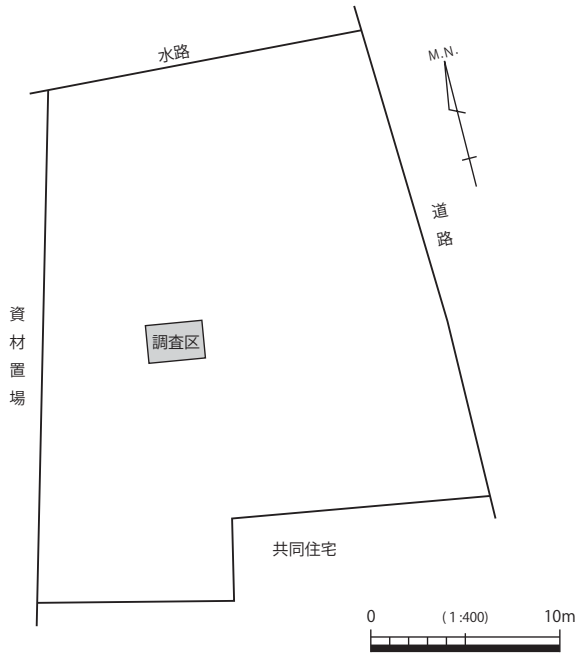
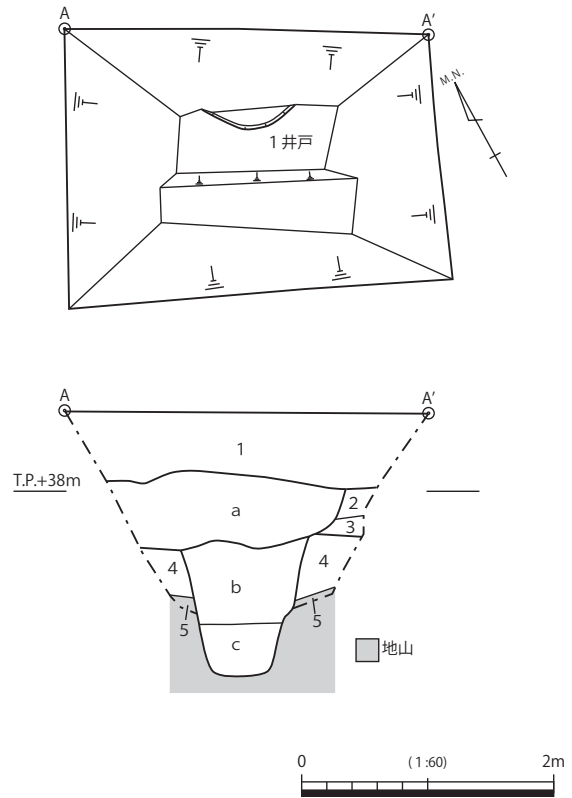


図 32 調査区配置図 (宿久庄遺跡 2018-1)

期は不明であるが、溝状の落ち込みとなる可能性がある。b・c層は輪郭の南側半分を確認しており、井戸の可能性が考えられる。埋土中から土師器片が出土した。

平成 11 年度に調査地の北西側で本調査が実施され、主として古墳時代後期の遺構が検出されており、今回の調査地まで広がっている可能性がある。



- 1 (盛土層) [0-1a層]
- 2 2.5Y6/1 黄灰色粗砂混じり粘質シルト [1-1a層]
- 3 2.5Y6/1 黄灰色粗砂 [1-2a層]
- 4 10YR6/4 にぶい黄褐色粘質シルト [2-1a層]
- 5 10YR7/6 明黄褐色粘土 [地山] [3-1 b層]
- a 2.5Y6/1 黄灰色礫 (直径 3 cm大) 混じり粗砂 [落ち込み?埋土]
- b 2.5Y5/2 暗灰黄色礫 (直径 3 cm大) 混じり粘質シルト [1 井戸埋土]
- c 10YR7/6 明黄褐色礫 (直径 3 cm大) 混じり粗砂 [1 井戸埋土]

図 33 平断面図 (宿久庄遺跡 2018-1)

## 2. 西国街道 2018-1 (図 31・34・35、図版 5)

調査地 宿川原町1018・1019の一部

調査面積 9㎡

調査期間 平成30年4月26日

調査担当 高村勇士

はじめに 調査地は、国史跡郡山宿本陣の西国街道を挟んで斜向かいに位置している。調査地北面は西国街道と呼ばれる近世以来の東西道であり、西国街道の北には勝尾寺川が蛇行しながら西から東に流れる。南は千里丘陵が間近に迫っている狭隘な地形上にある。調査地の標高は、北面する現況道路とほぼ同じである。調査は個人住宅建築予定範囲のうち 3m × 3m の調査区を設定し実施した。

基本層序 調査の結果、大別して下記の層序を確認した。

0層：現代盛土層 (0-1a層)

1層：炭化した木片を多く含む焦土層 (1-1a層)

2層：近世の土間など比較的丁寧にした整地層? (2-1a層)

3層：近世以前の整地層? (3-1a層)

4層：段丘構成層 (4-1b層)

1-1a層には非常に多くの炭化した木片を含み、比較的大量の木が燃えたと想定される。そのほか、下位にある 2-1a層の細かいブロック土も含みこむ。下位の 2-1a層は、淘汰悪いながら比較的均質で

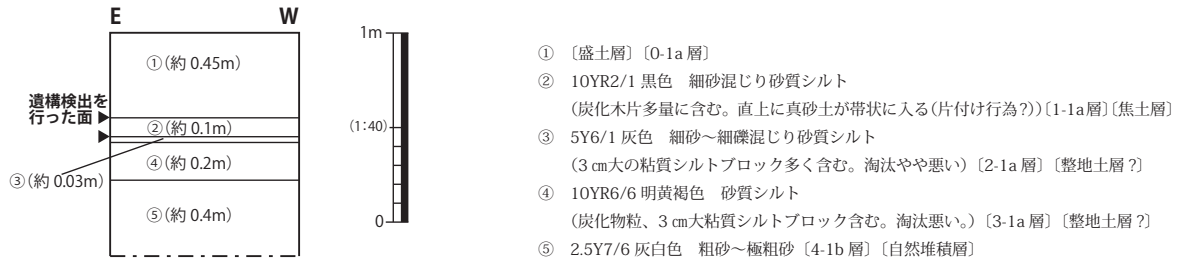


図34 断面柱状図(西国街道 2018-1)

ある。下面には鉄分沈着が見られ水分の透過があったと考えられる。建物内の土間など床面を丁寧にした印象を持つが、後世の攪乱もあり調査区全面において確認できていないため判然としない。3-1a層は、淘汰の悪い細砂混じり砂質シルト層であり、整地層と考えられる。それ以下は自然堆積層と考えられ、掘削限界のGL一約1.1mまでは4-1b層であった。

**遺構・遺物** 遺構は平面で検出することができなかったが、1-1a層上面から切り込むもの(1土坑)、2-1a層上面から切り込むもの(2土坑)、3-1a層上面から切り込むもの(3土坑)が、調査区の壁面において確認できた。1土坑は時期不明であり、0-1a層との間に層理面を確認することができたが、近現代における攪乱として扱える可能性もある。2土坑は東壁で2-1a層を切り込んでいる。埋土は2.5Y5/2暗灰黄色砂質シルトの非常に淘汰の悪い土で構成している。断面は幅約0.6m、深さ約0.25mを測る略半円形を呈す。断面を観察した限りではその機能は判然としない。また、3土坑は南壁で3-1a層上面から切り込み、直径10～15センチ大の礫が詰め込まれていた。暗渠などを想定したいところであるが、他の壁面等にその痕跡が見られない。

遺物は、27・28が1-1a層、29が2-1a層より出土した。この他、3-1a層からも土師器の細片が出土しているが図化し得なかった。27は、肥前陶器鉢の体部下位から底部片である。外面及び内面に灰白色(10Y8/1)の釉がかかる。外面下部及び高台部分は露胎であり明赤褐色(2.5YR5/6)を呈する。ロクロ成形であり、高台側面及び高台内はケズリを施す。また、内面見込みに胎土目1個が認められる。豊臣期から江戸初期の所産であろう。28は、肥前陶器碗である。ロクロ成形。内外面に暗オリーブ色(5Y4/4)の釉がかかる。高台部分は露胎であるが、一部釉垂れが認められる。高台内の削りは高台脇とほぼ同じで高さ4mm程度と低く、断面逆三角形を呈している。色調は、露胎部分と断面はにぶい黄橙色(10YR7/3)である。豊臣期から江戸初期の所産であろう。29は播鉢の口縁部片である。ロクロ成形。口縁は内側にわずかに肥厚しながら立ち上がり、端部は面をもっておさめる。また、口縁内面に段がありその1cm程度下より8本を一単位とした播目が一条みられる。色調は、外面は橙色(5YR6/6)、内面・断面は橙色(5YR6/8)であり、胎土はやや粗く直径1mm程度の長石、石英をわずかに含む。丹波焼の模倣と考えられ、17世紀後半以降の所産であろう。

**まとめ** 郡山宿は、現代に遺存する国史跡郡山宿本陣を中心として宿川原東町・宿川原西町・道祖本町で構成される近世山崎通の宿駅である。この郡山宿がいつの段階で宿駅に指定され、成立したかは不明な点が多い。ただし、隣村の「郡山」は中世末には寺内町として宿駅機能を有していたと考えられ、その機能が統合され郡山宿が成立したと目されて

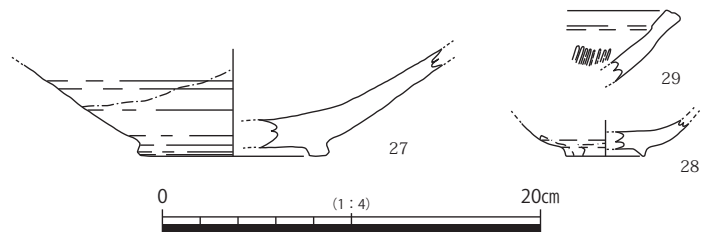


図35 出土遺物(西国街道 2018-1)

いる。少なくとも慶長11年（1606年）には宿駅に指定されていないながらも人馬継立の機能を有していたことは確かであり、箕面市に所在する瀬川半町が寛永期には宿駅となっていることから、郡山宿も同時期あるいはそれ以前に宿駅に指定されたと想定されている。

調査地周辺は、享保3年（1718年）に玄通寺の東隣の伝右衛門方から出火し本陣を含む17軒に火が及んだことが、本陣に残る宿帳の享保三年の項に「戌十月五日夜八つ時二傳右衛門より出火ニて類焼」とあることなどより確認できる。ちょうど調査地近辺が火災発生の位置と考えられ、今回確認した多くの炭化材片を含む焦土層（1-1a層）がこの火災に関する可能性がある。また、この層内より豊臣期から江戸初期の陶器片が出土したことは、調査地近辺に当該期より人為的営為があったと考えられる。このことは郡山宿の成立について考古学的に検討する資料となり得る。今次調査の重要な成果である。

[参考文献]

梶洗・福留照尚 2000『山崎通郡山宿 椿之本陣宿帳』

茨木市史編さん委員会 2016『新修茨木市史』第二巻 通史Ⅱ

茨木市教育委員会教育総務部社会教育振興課 2016『国史跡 郡山宿本陣一椿の本陣一』

## 第5節 総持寺遺跡・太田遺跡・太田北遺跡・西国街道

### 1. 総持寺遺跡 2018-1 (図36・37)

調査地 三島丘一丁目83-9

調査期間 平成30年4月6日

調査面積 5.5㎡

調査担当 富田卓見



図36 総持寺遺跡調査地位置図

はじめに 三島丘一丁目において計画された個人住宅の建築に伴い、発掘調査を実施した。申請地内の建物建築予定範囲内に調査区（1.5m × 1m）を設定し掘削を開始したが、多量のガラや過去の地盤改良等のため、GL - 1m以下の掘削ができなかった。このため、その南側に4m × 1mの別調査区を設定し、筋掘りを行う中で下層まで掘削可能な部分を探し、調査を行った。

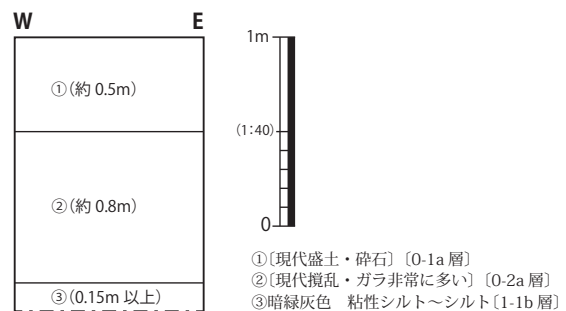


図37 断面柱状図（総持寺遺跡 2018-1）

基本層序 基本層序は2層に大別でき、0層：現代盛土・攪乱、1層：自然堆積層の構成である。

遺構・遺物 GL - 1.45mの範囲において、埋蔵文化財は認められなかった。

まとめ 今次調査では、遺構・遺物は認められなかった。今次調査地周辺にてこれまで実施した調査では、GL - 1.2m前後で地山層が認められることから、これより下層では埋蔵文化財は認められないものと判断した。

## 2. 太田遺跡 2018-2 (図 38・39)

調査地 太田一丁目640-5、641-6

調査面積 6㎡

調査期間 平成30年10月2日

調査担当 宮西貴史・坂田典彦



図 38 太田遺跡・太田北遺跡・西国街道調査地位置図

はじめに 太田一丁目において計画された個人住宅の建築に伴い、建設予定地内に 2m × 3m の調査区を 1 箇所設定して確認調査を行った。調査地の現況地盤は西面する道路面とほぼ同じである。

基本層序 層序は上層から、0-1a 層（盛土）、1-1a 層（黒色粘質シルト・近現代耕作土層）、1-2a 層（オリーブ黒色礫混じり砂質シルト・近現代耕作土層）、1-3a 層（灰色礫混じり粘質シルト・近世の磁器を含む・近現代耕作土層）、2-1a 層（黄灰色細砂混じり砂質シルト・上位に土壌化がみられ土師器片含む・後世の鉄分、マンガン沈着・土壌化層）、3-1b 層（灰色砂質シルト・ベース土層）である。

遺構・遺物 3-1b 層上面で遺構検出を行ったが、遺構は検出されなかった。遺物は 2-1a 層から中世の土師器片が少量出土した。

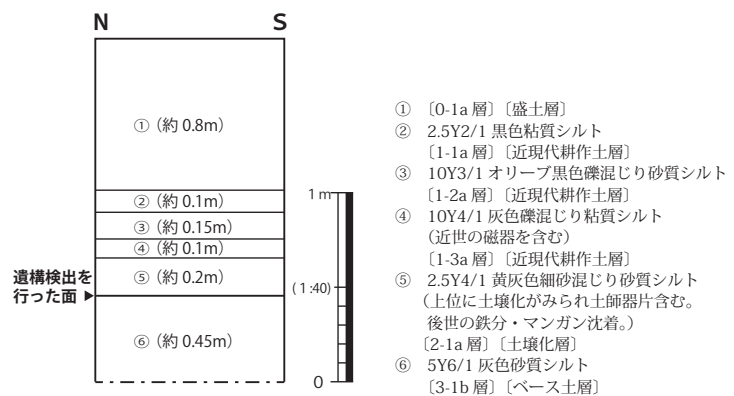


図 39 断面柱状図 (太田遺跡 2018-2)

### 3. 太田遺跡・西国街道 2018-1 (図 38・40・41)

調査地 太田一丁目354-1

調査期間 平成30年12月17日

調査面積 6㎡

調査担当 木村健明

はじめに 太田一丁目計画された個人住宅の建築に伴って、2m × 3m の調査区を設定し確認調査を行った。

基本層序 層序は、0-1a層 盛土層（層厚 1.3m）、1-1a層 旧耕土層（層厚 0.2m）、2-1a層 灰色粘土層（層厚 0.2m）、3-1a層 褐灰色粘質シルト（層厚 0.1m）、4-1a層 黒色粘質シルト（層厚 0.2m・包含層）、5-1b層 黄灰色粗砂混じり粘質シルト層（人頭大の礫多く含む・地山・層厚不明）である。

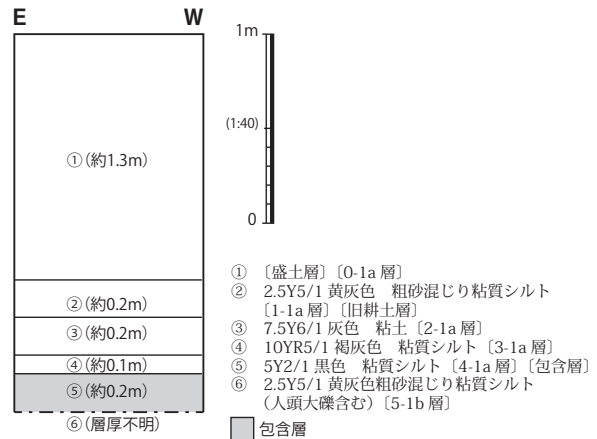


図 40 断面柱状図 (太田遺跡・西国街道 2018-1)

遺構・遺物 4-1a層中から古墳時代後期～古代の土師器・須恵器が出土した。しかし、湧水の影響もあり遺構は検出できなかった。

遺物は3点を掲載した。いずれも4-1a層からの出土である。30・31は須恵器甕である。30は頸部、31は体部である。ともに外面にタタキ後カキメ、内面に同心円状タタキを施す。同一個体と考えられる。32は土師器羽釜ないし移動式竈である。鏝の端部は欠損するが根元部分は残存する。体部下方にタテハケを施す。

まとめ 今回の層序は、120m北で行った太田遺跡 2018-1 調査区の西部と似ている。2018-1 調査区では、溝、土坑などを確認しており、今回の調査地周辺にも遺構の存在する可能性があり、注意が必要である。



図 41 出土遺物 (太田遺跡・西国街道 2018-1)

### 3. 太田北遺跡・西国街道 2018-1 (図 38・42)

調査地 太田三丁目288-2

調査期間 平成30年11月26日

調査面積 6㎡

調査担当 木村健明

はじめに 太田三丁目計画された個人住宅の建築に伴って、2m × 3m の調査区を設定し確認調査を行った。

基本層序 層序は、0-1a層 盛土層（層厚 1.4m）、1-1a層 旧耕土層（層厚 0.25m）、2-1b層 地山層（明黄褐色粘土・層厚さ 0.1m 以上）である。

2-1b層上面で遺構検出を行ったが、遺構・遺物は確認できなかった。

周辺ではこれまでも確認調査が行われており、東側では0.3m～0.9mで、西側では0.9m～1.65mで地山面に達している。全体的に東が高く、西側に向かっていく台地際の地形であるため、地点に応じて造成の程度に差があると思われるが、今回と西側の隣接地はGL - 1.65mで地山面に達し、東側に比べると著しく深いため、元々の地形が落ち込んでいた可能性が考えられる。

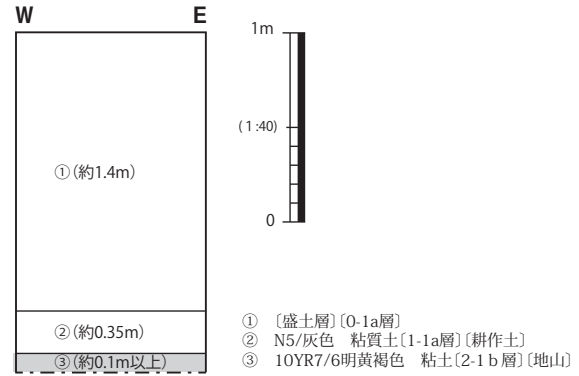


図 42 断面柱状図 (太田北遺跡・西国街道 2018-1)

## 第6節 中穂積遺跡・松ヶ本北遺跡・常楽寺跡・三島街道

### 1. 中穂積遺跡・三島街道 2018-1 (図 43～45)

調査地 中穂積二丁目250-2

調査面積 6m<sup>2</sup>

調査期間 平成30年1月10日

調査担当 木村健明

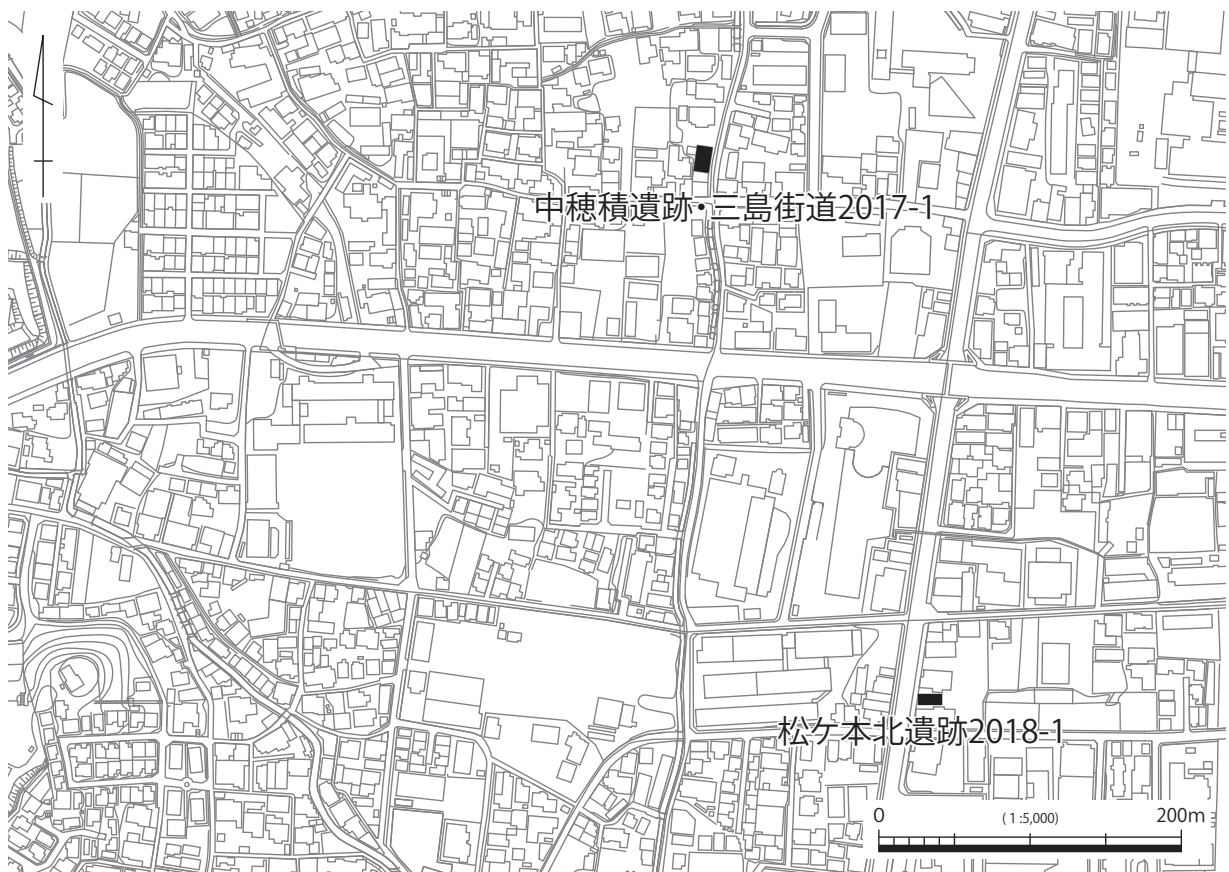


図 43 中穂積遺跡・松ヶ本北遺跡調査地位置図

はじめに 中穂積二丁目において計画された個人住宅建築に伴い、2m×3mの調査区を設定し、調査を行った。

基本層序 現地表面の標高は、T.P.+19.4mである。層序は上層から0-1a層 解体時盛土(層厚0.2m)、0-2a層 造成時盛土(層厚0.6m)、1-1a層 暗灰色粘質シルト(旧耕土・層厚0.15m)、2-1a層 灰

第3章 調査の成果

白色粘土（層厚0.15m）、3-1a層 灰白色粗砂混じり粘質シルト（層厚0.1m）、3-2a層 灰色粗砂混じり粘質シルト（層厚0.25m）、3-3a層 灰オリーブ色粘質シルト（層厚0.25m）4-1b層 灰白色粘土（地山・層厚0.15m以上）である。

4-1b層上面において遺構の検出を行った。その結果、径0.8m、深さ0.4mの円形の土坑1基を検出した。ただし、遺物は出土しなかったため、時期は不明である。

まとめ 中穂積遺跡は調査事例が少なく、様相の不明な点が多い。今回、GL - 1.2mにおいて遺構の存在を確認したことで、周辺で調査を行う際の目安とすることができよう。

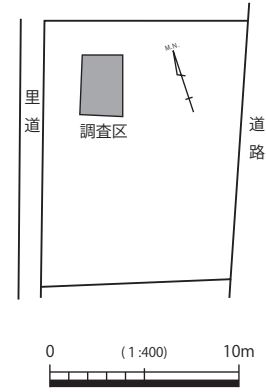


図44 調査区配置図（中穂積遺跡・三島街道 2018-1）

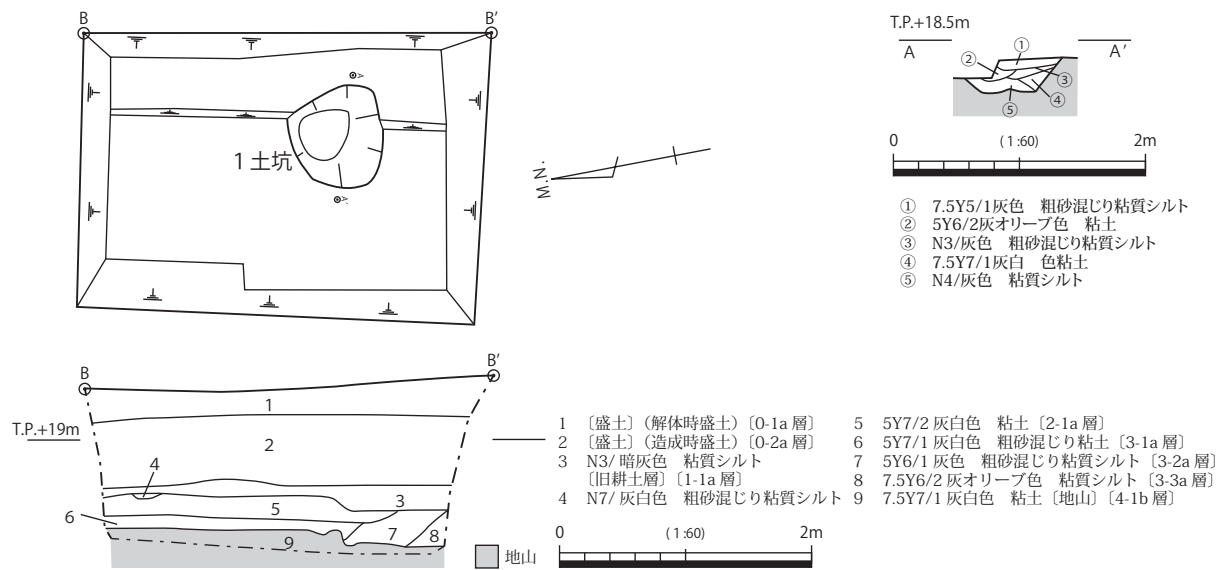


図45 平断面図（中穂積遺跡・三島街道 2018-1）

2. 松ヶ本北遺跡 2018-1 (図43・46)

調査地 松ヶ本町33-4

調査面積 6.25㎡

調査期間 平成30年7月12日

調査担当 富田卓見

はじめに 松ヶ本町において計画された個人住宅の建築に伴い、建物建築予定範囲内の中央付近に調査区を設定し、発掘調査を実施した。

基本層序 基本層序は5層に大別でき、上層より0層：現代盛土、1層：耕作関連土層、2層：ベース土層？、3層：水成堆積土、4層：水成堆積土の構成である。

遺構・遺物 GL - 2.25mの範囲において、埋蔵文化財は認められなかった。

まとめ 今次調査では、集落の詳細を示すような遺構・遺物は認められなかった。だが、今回の調査で留意する点として、GL - 2.05mにて確認した黒灰色粘性シルト層（4-2b層）が挙げられる。この土層は、当該地の東方に広がる中条小学校遺跡西端部から松ヶ本南遺跡・松ヶ本北遺跡にかけての範囲で実施した調査でも散見されている。当層の確認事例は少なく詳細は不明であるが、土壌化はしているが層中に遺物等を含まず、人の営みが開始されるよりも以前に堆積した無遺物層と推測される。



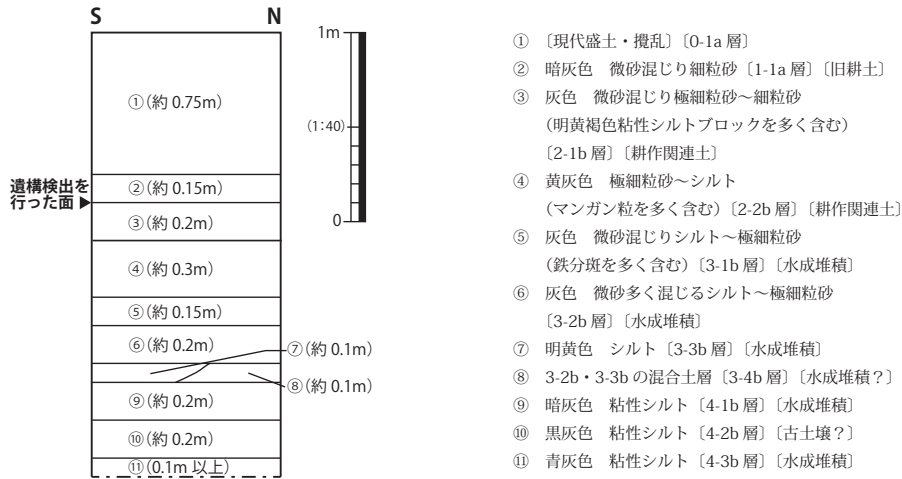


図46 断面柱状図 (松ヶ本北遺跡 2018-1)

### 3. 常楽寺跡 2018-1 (図47～49)

調査地 蔵垣内三丁目445、445-2の一部

調査面積 6m<sup>2</sup>

調査期間 平成30年12月13日

調査担当 木村健明

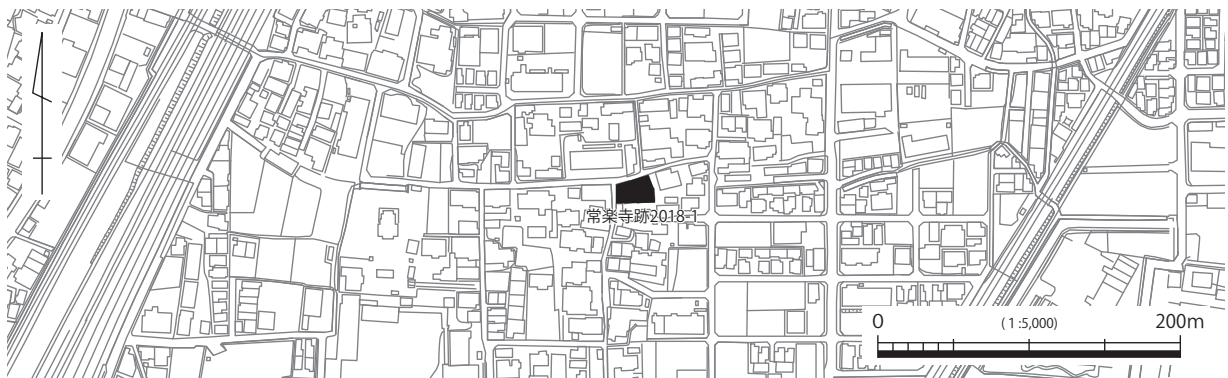


図47 常楽寺跡調査地位置図

はじめに 蔵垣内三丁目で計画された個人住宅の建設に伴って、2m × 3mの調査区を設定し調査を行った。

基本層序 層序は、0-1a層 盛土層 (層厚0.5m)、1-1a層 黄灰色粗砂混じり粘質シルト層 (層厚0.1m)、2-1b層 明黄褐色粘土層 (地山層) である。

遺構・遺物 2-1b層上面で溝1条 (1溝) を検出した。1溝は北側のみの検出で、南側は調査区外となる。検出幅0.8m、深さ0.4mを測る。溝内から土師器片が出土したことから、中世の遺構と考えられる。調査区北側は近世の攪乱 (深さ0.7m以上) が存在する。

まとめ 周辺はこれまで調査事例が少ない地域であるが、GL - 0.6mで地山面と遺構が検出されたことから、比較的浅い深度に遺構が存在する可能性があり、注意が必要である。

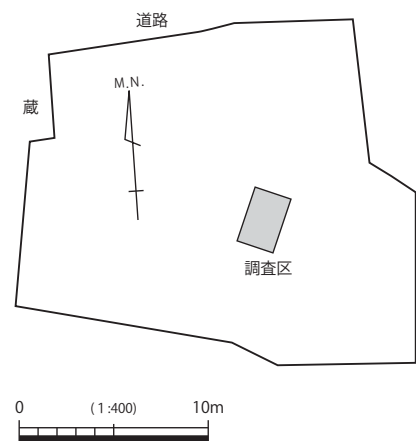


図48 調査区配置図 (常楽寺跡 2018-1)

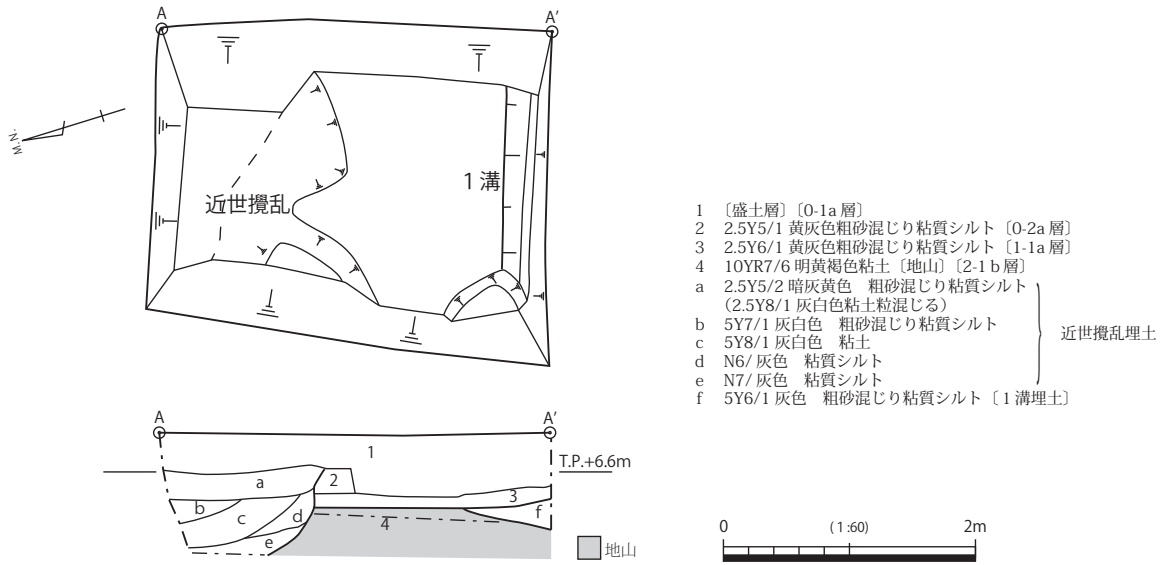


図49 平断面図 (常楽寺跡 2018-1)

## 第7節 牟礼遺跡

### 1. 牟礼遺跡 2017-8 (図50・51)

調査地 中津町572-16

調査面積 6㎡

調査期間 平成30年2月16日

調査担当 富田卓見

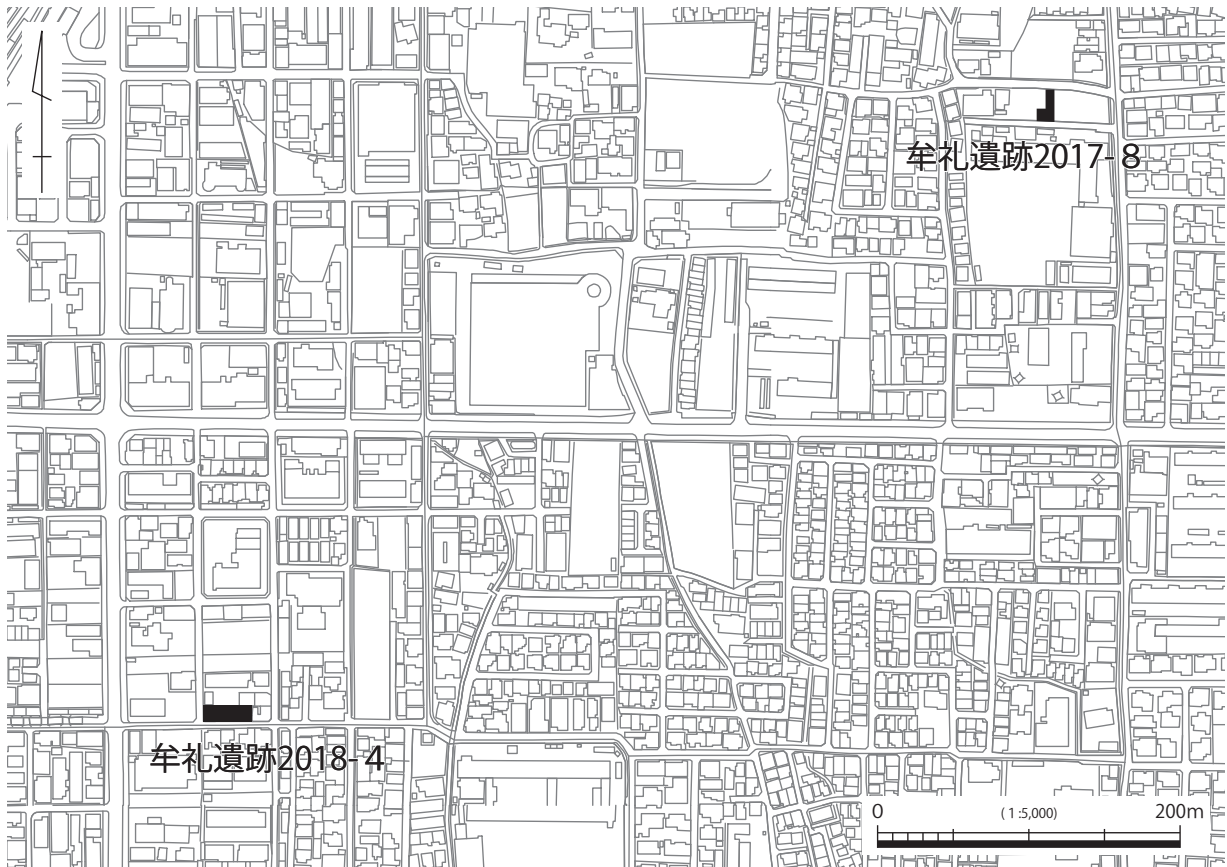


図50 牟礼遺跡調査地位置図

はじめに 中津町において計画された個人住宅の建築に伴い、申請地内の建物予定範囲内に調査区を設定し、発掘調査を実施した。なお、今次調査地の現況地盤高は、北に接する道路面とほぼ同じである。

**基本層序** 基本層序は5層に大別でき、上層から0層：盛土・攪乱、1層：耕土・整地土、2層：氾濫等のかぶり土、3層：水成堆積、4層：ベース土の構成である。

**遺構・遺物** GL - 1.9mの範囲において、埋蔵文化財は認められなかった。また、GL - 1.9m以下については、安全面から確認することができなかった。

まとめ 今次調査については、埋蔵文化財は認められなかった。

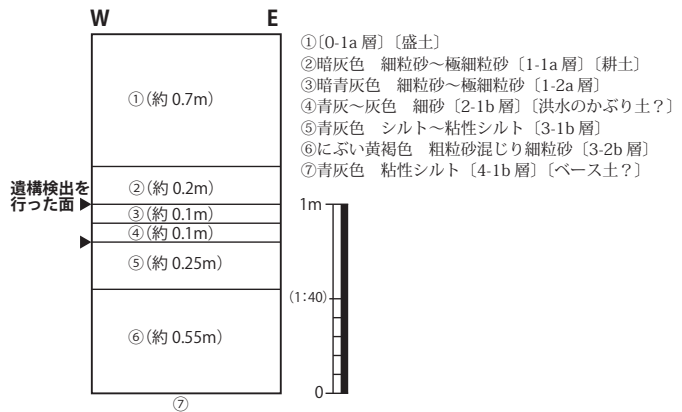


図 51 断面柱状図 (牟礼遺跡 2017-8)

## 2. 牟礼遺跡 2018-1 (図 50・52)

**調査地** 舟木町440-1の一部

**調査期間** 平成30年5月15日

**調査面積** 9㎡

**調査担当** 坂田典彦

はじめに 東西に細長い敷地において、計画建物予定範囲の西寄りに3m×3mのトレンチを設定した。当初、東端にもトレンチを設定したが旧建築物の改良により掘削が不可能であった為、まず西端で確認し、埋蔵文化財が認められれば掘削範囲を可能な限り東へ広げる方針を採った。

**基本層序** 今次調査で得られた基本層序は、図 52 のとおり大別4層、細別9層に区分できた。以下に、大別層の概要を記す。

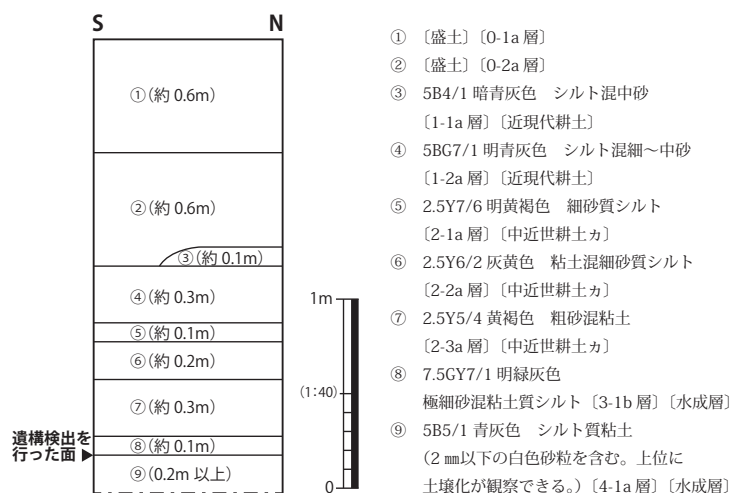


図 52 断面柱状図 (牟礼遺跡 2018-1)

0層：盛土 (0-1a・0-2a層)

1層：近現代の耕作土 (1-1a・1-2a層)

2層：中近世に帰属する可能性のある耕作土 (2-1a・2-2a・2-3a層)

3層：水成層 (3-1b層)

4層：上位に土壌化が観察される水成層 (4-1a層)

本地点では、いずれの層準からも遺物は出土しなかった。

**遺構・遺物** 4層上面 (4-1b層上面) から10cmほど下げたレベルで面的な調査を行ったが、遺構等の埋蔵文化財は認められなかった。

## 第8節 中条小学校遺跡・東奈良遺跡

### 1. 中条小学校遺跡 2018-4 (図53・54、図版5)

調査地 奈良町592-6、-7

調査面積 4m<sup>2</sup>

調査期間 平成30年7月18日

調査担当 高村勇士



図53 中条小学校遺跡調査地位置図

はじめに 奈良町で計画された個人住宅建築予定範囲内に調査区を設定し調査を実施した。

基本層序 基本層序は以下の4層に大別できる。

0層：現代盛土層 (0-1a層)

1層：現代耕作土層 (1-1a層)

2層：耕作土層 (2-1a層)

3層：沖積段丘構成層?とそれを母材とする土壌層 (3-1a層・3-2b層)

遺構・遺物 GL - 約1m以下より包含層(3-1a層)を検出した。遺構は約0.2m程度の包含層下面

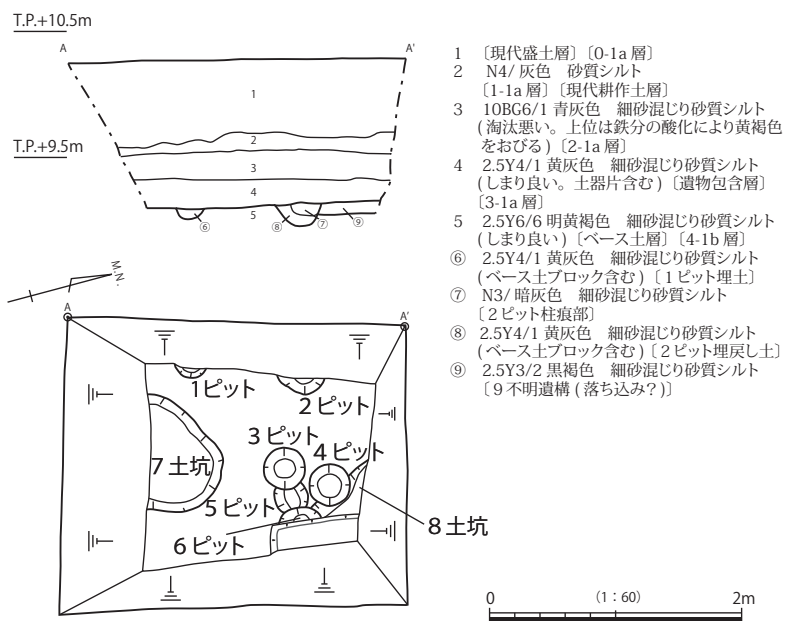


図54 中条小学校遺跡調査地位置図

- 1 [現代盛土層] (0-1a層)
- 2 N4/灰色 砂質シルト
- [1-1a層] [現代耕作土層]
- 3 10BG6/1 青灰色 細砂混じり砂質シルト (淘汰悪い。上位は鉄分の酸化により黄褐色をおびる) [2-1a層]
- 4 2.5Y4/1 黄灰色 細砂混じり砂質シルト (しまり良い。土器片含む) [遺物包含層] [3-1a層]
- 5 2.5Y6/6 明黄褐色 細砂混じり砂質シルト (しまり良い) [ベース土層] (4-1b層)
- ⑥ 2.5Y4/1 黄灰色 細砂混じり砂質シルト (ベース土ブロック含む) [1ピット埋土]
- ⑦ N3/暗灰色 細砂混じり砂質シルト [2ピット柱痕部]
- ⑧ 2.5Y4/1 黄灰色 細砂混じり砂質シルト (ベース土ブロック含む) [2ピット埋戻し土]
- ⑨ 2.5Y3/2 黒褐色 細砂混じり砂質シルト [9不明遺構(落ち込み?)]

で検出した。ピット6基、土坑2基、不明遺構1基を検出したが、調査面積が狭小なこともあり、全体として遺構の有機的な関連を究明するには至らなかった。また、各遺構の所属時期についても遺構内より際立った遺物が出土しなかったことから、不明と言わざるを得ない。包含層内からは「て」の字状口縁の土師皿、須恵器の小片が認められた。

## 2. 中条小学校遺跡 2018-5 (図 53・55)

調査地 東中条町1002-5の一部

調査面積 6.25㎡

調査期間 平成30年8月9日

調査担当 富田卓見

はじめに 東中条町において計画された個人住宅の建築に伴い、建物建築範囲内に調査区を設定し、発掘調査を行った。

基本層序 基本層序は4層に大別でき、上層から0層：現代盛土・攪乱、1層：耕作関連土層、2層：耕作関連土層、3層：土壌化層、4層：地山層の構成である。遺構検出は、4層上面にて実施した。

遺構・遺物 GL - 2.05mの範囲において、埋蔵文化財は認められなかった。

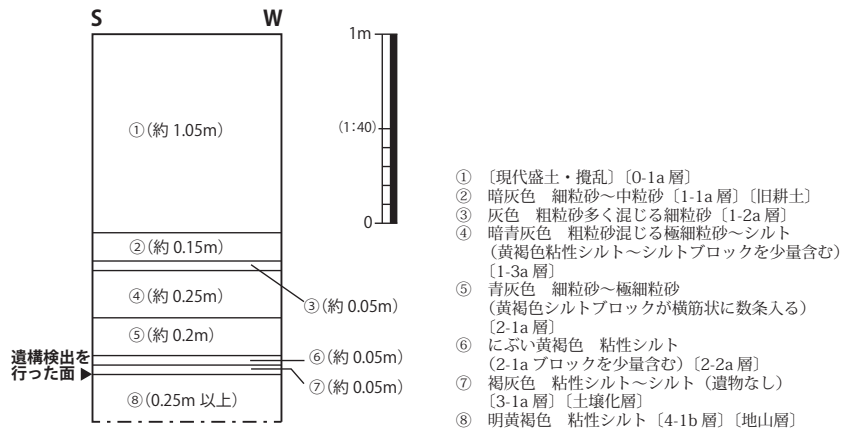


図 55 断面柱状図 (中条小学校遺跡 2018-5)

まとめ 今次調査では、集落の詳細を示すような遺構・遺物は認められなかった。

## 3. 東奈良遺跡 2017-10 (図 56・57)

調査地 天王一丁目17-15

調査面積 6㎡

調査期間 平成30年2月27日

調査担当 木村健明

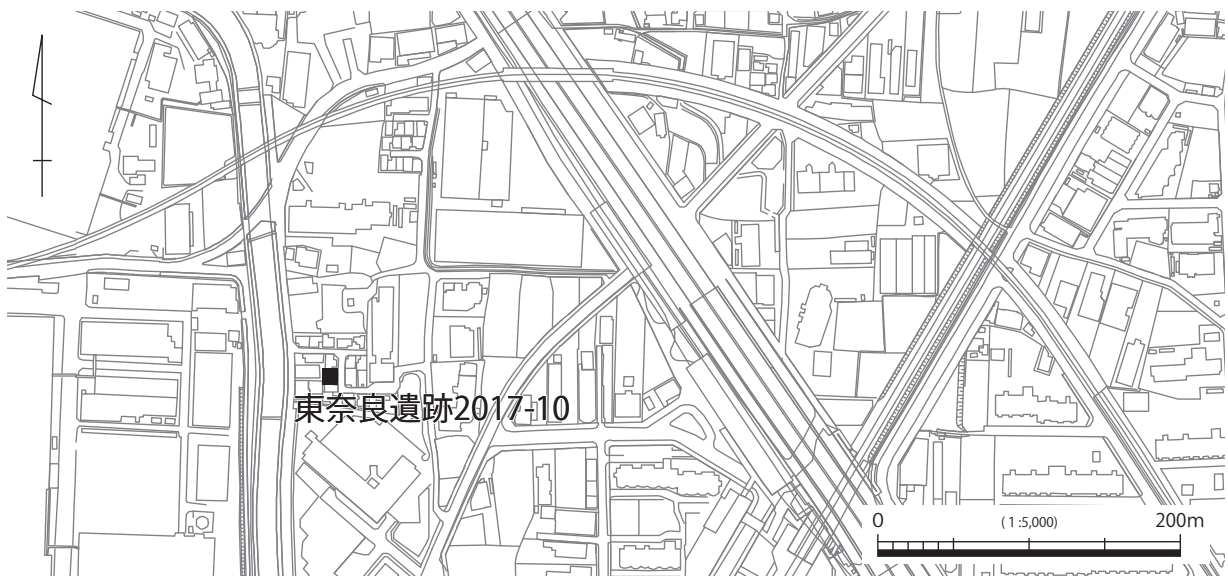


図 56 東奈良遺跡調査地位置図

第3章 調査の成果

はじめに 天王一丁目において計画された個人住宅の建設に伴って、2m × 3m の調査区を設定し確認調査を行った。

基本層序 層序は、0-1a層 盛土(層厚 1.8m)、1-1a層 暗灰色粘質シルト混じり粗砂(層厚 0.15m・耕作土)、2-1b層 黒色粗砂(層厚 0.15m)、2-2b層 灰白色粗砂(層厚 0.2m)、2-3b層 灰色微砂混じり粘土(層厚 0.2m以上)である。

盛土が厚く、2-3b層以下の堆積状況や遺構・遺物を確認することはできなかった。周辺で行われた確認調査の結果も含めて判断すると、当地は西側を流れる大正川の影響を受けている可能性がある。

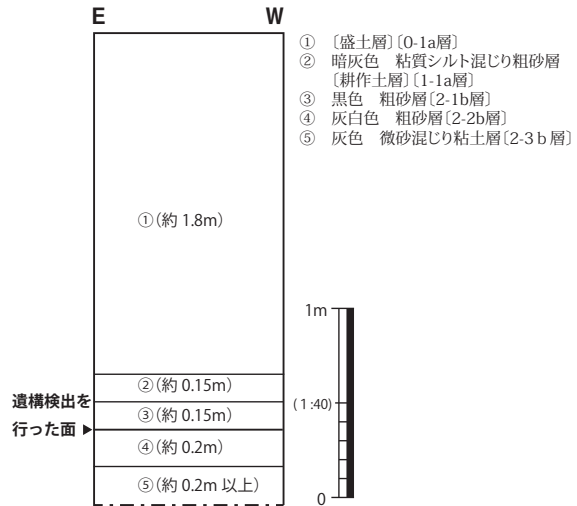


図 57 断面柱状図 (東奈良遺跡 2017-10)

4. 東奈良遺跡 2017-11 (図 58・59)

調査地 沢良宜西二丁目503-7

調査面積 6.25㎡

調査期間 平成30年2月27日

調査担当 富田卓見



図 58 東奈良遺跡調査位置図

はじめに 沢良宜西二丁目において計画された個人住宅の建築に伴い、建築予定範囲内に調査区を設定し、発掘調査を実施した。

基本層序 基本層序は3層に大別でき、上層から0層：盛土・攪乱、1層：耕土関連土層、2層：水成堆積の構成である。2層は青灰色系のシルト～粘性シルトを主とした土層である。

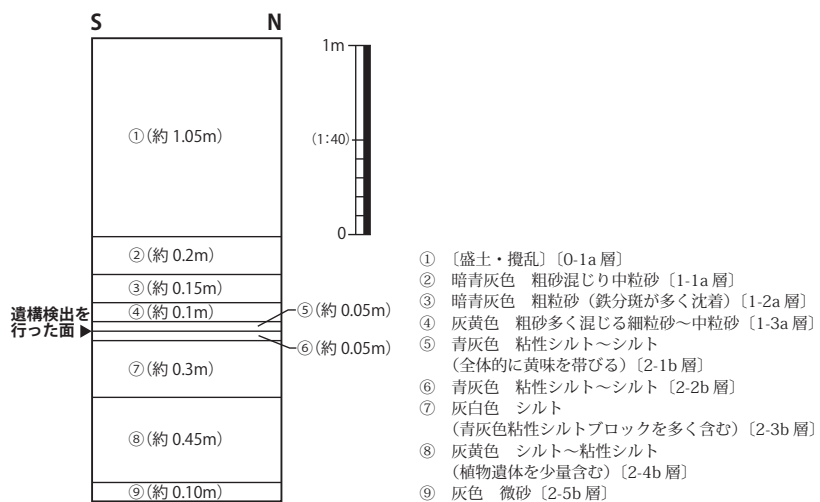


図 59 断面柱状図 (東奈良遺跡 2017-11)

遺構・遺物 GL - 2.45mの範囲において、埋蔵文化財は認められなかった。

まとめ 今次調査では各層から遺物や遺物は認められず、当該地近辺は長期間にわたって人の生活圏ではない環境下にあったと推測される。

## 5. 東奈良遺跡 2018-4 (図 58)

調査地 沢良宜西一丁目513-2

調査面積 9㎡

調査期間 平成30年10月25日

調査担当 高村勇士

はじめに 調査地付近は西から東に下る地形上にあり、調査地に南面する東西道路も緩やかに西から東へ下る。また、調査地の西隣の地盤はほぼ調査地と同レベルであるが、東隣の宅地の地盤は調査地のGLより約1.8m低い。旧地形についても西から東へと下る地形が推測され、一定程度の平坦地を造成するための切り盛りの結果、調査地の地盤は大きく盛土されていると想定できる。

遺構・遺物 調査の結果、GL - 2mまで真砂土で構成された盛土を確認したが、それ以下について重機掘削の安全を確保しながら調査を進めることはかなわず、確認することはできなかった。したがって遺構・遺物は確認できていない。

まとめ 『新修茨木市史』第八巻史料編地理所収の明治二十年(1887年)3月25日付の摂津国島下郡沢良宜西村地押全図によると、調査地は小字「垣内」の東端に位置し、その東隣は「水」となっている。調査地の北側においても「水」は、「垣内」の外側をめぐるように位置することを考慮すると、「垣」の内と外を区画するといった、ため池以上の目的・機能を持っていた可能性がある。いずれにしても、調査地周辺の地形はその名残として理解できるものと推測される。

[参考文献]

茨木市史編さん委員会 2004 『新修茨木市史』第八巻 史料編 地理 茨木市

## 第9節 玉櫛遺跡・西方浄土寺跡

### 1. 玉櫛遺跡 2018-1 (図 60・61)

調査地 真砂一丁目308-18

調査面積 9㎡

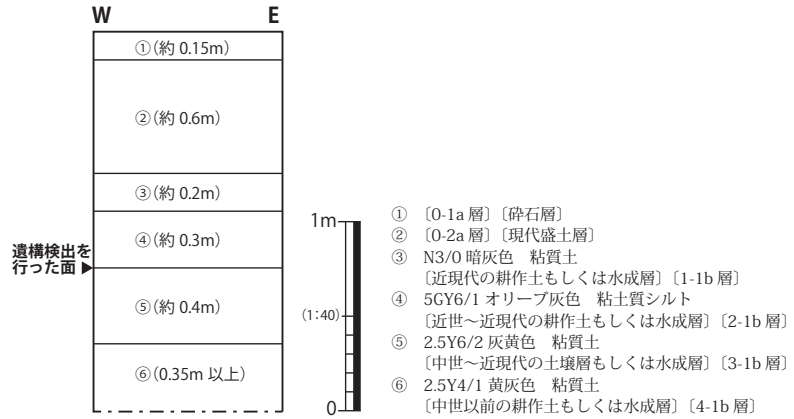
調査期間 平成30年5月15日

調査担当 濱田教靖・坂田典彦



図 60 玉櫛遺跡調査地位置図

はじめに 真砂一丁目において計画された個人住宅の建築に伴い、当該建築物の建設予定地中央に 3m × 3m のトレンチを 1 箇所設定して確認調査を行った。調査地は 4 区画の戸建て用地の北東に位置し、現況地盤は北接する道路面と同一である。



基本層序 今次調査で得られた基本層序は、図 61 のとおり

図 61 断面柱状図 (玉櫛遺跡 2018-1)

大別 5 層、細別 6 層に区分できた。以下に、大別層の概要を記す。

- 0 層：碎石・盛土 (0-1a・0-2a 層)
- 1 層：近現代に帰属する可能性のある耕作土もしくは水成層 (1-1b 層)
- 2 層：近世～近現代に帰属する可能性のある耕作土もしくは水成層 (2-1b 層)
- 3 層：中世～近現代に帰属する可能性のある土壌層もしくは水成層 (3-1b 層)
- 4 層：中世以前に帰属する可能性のある土壌層もしくは水成層 (4-1b 層)

本地点では、いずれの層準からも遺物が出土しておらず、それぞれに与えた帰属時期は層相から推測された想定に過ぎないが、同戸建て用地内西側区画で実施した玉櫛遺跡 2018-2 において、3 層上面精査時に中世に帰属する土師器皿と瓦器椀が出土しており、これらを想定の根拠とした。

遺構・遺物 3 層上面 (3-1b 層上面) で、面的な調査を行ったが、遺構・遺物などの埋蔵文化財は認められなかった。

まとめ 今回の調査では、狭小な面積であることに加え、湧水の著しい軟弱な土質であったことから、確認深度 2m が限界であった。したがって、より下層の状況は不明であるが、観察できた範囲では連続する水成層の堆積状況から、既往調査で確認されている玉櫛遺跡の遺構面は当該地までは広がっていないと推測する。追記として 1・2 層の層準は、一見、耕作土にもみえるが植物遺体が顕著であり、床土や耕作による攪拌が観察できなかつたことから、放棄水田や水溜の堆積層とも推測されるため、水成層を併記した。いずれにせよ堆積時期は近現代と考えられる。

## 2. 玉櫛遺跡 2018-2 (図 60・62)

調査地 真砂一丁目 308-20

調査面積 9㎡

調査期間 平成30年5月16日

調査担当 濱田教靖・坂田典彦

はじめに 真砂一丁目において計画された個人住宅の建築に伴い、建築予定地中央に 3m × 3m のトレンチを 1 箇所設定して確認調査を行った。調査地は 4 区画の戸建て用地の西側に位置し、先述の玉櫛遺跡 2018-1 地点に西接する。

基本層序 今次調査で得られた基本層序は、図 62 のとおり大別 5 層、細別 6 層に区分できた。以下に、大別層の概要を記す。

- 0 層：碎石・盛土 (0-1a・0-2a 層)



- 1層：近現代に帰属する可能性のある耕作土もしくは水成層（1-1b層）
- 2層：近世～近現代に帰属する可能性のある耕作土もしくは水成層（2-1b層）
- 3層：中世～近現代に帰属する可能性のある土壌層もしくは水成層（3-1b層）
- 4層：中世以前に帰属する可能性のある土壌層もしくは水成層（4-1b層）

各層準の帰属年代については、3層上面精査時に中世に帰属する土師器皿と瓦器椀が出土しており、これらを推定の根拠とした。

遺構・遺物 3層上面(3-1b層上面)で面的な調査を行い、遺構は検出されなかったものの、下記の遺物が出土した。

出土した遺物は土師器皿33と瓦器椀34があり、いずれもややローリングを受けており、周辺からの流入遺物と考えられる。以下に、各遺物の所見を記す。33は口縁部のみ残存しており、底面から浅く立ち上がり、端部のヨコナデ調整によってやや上方に屈曲する器形をもつ。口縁端部は尖り気味におさめる。12～13世紀代の所産と推察される。断面三角形の貼り付け高台をもつ34は、底部のみが残存していた。高台径は5.5cmを測り、残存高台の形態から形骸化が顕著になる直前の段階とみてよい。尾上編年Ⅱ-1・2期に比定できよう。

まとめ 今回の調査地点も、玉櫛遺跡2018-1地点と同様の所見であり、既往調査で確認されている玉櫛遺跡の遺構面は当該地までは広がっていないと判断するに至った。

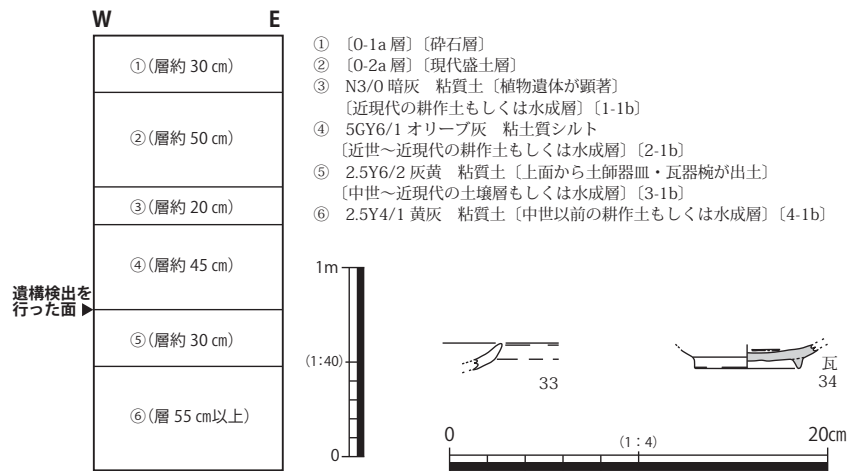


図62 断面柱状図・出土遺物（玉櫛遺跡2018-2）

### 3. 玉櫛遺跡2018-3（図60・63）

調査地 玉櫛二丁目425-8

調査期間 平成30年7月10日

調査面積 6.3㎡

調査担当 富田卓見

はじめに 玉櫛二丁目において計画された個人住宅の建築に伴い、建物建築予定範囲内の中央付近に調査区（2.5m × 2.52m）を設定し、発掘調査を実施した。

基本層序 基本層序は4層に大別でき、上層より0層：現代盛土、1層：耕作関連土、2層：水成堆積土、4層：ベース土？の構成である。

遺構・遺物 GL - 2.15mの範囲において、遺構・遺物といった埋蔵文化財は認められなかった。

まとめ 今次調査では、集落の詳細を示すような遺構・遺物は認められなかった。

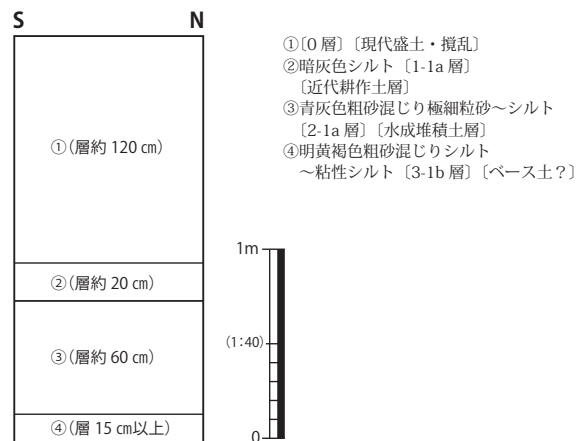


図63 断面柱状図（玉櫛遺跡2018-3）

#### 4. 玉櫛遺跡 2018-4 (図 60・64)

調査地 真砂一丁目308-14

調査期間 平成30年12月12日

調査面積 4㎡

調査担当 木村健明

はじめに 真砂一丁目計画された個人住宅の建設に伴って、2m × 2m の調査区を設定し確認調査を行った。

基本層序 層序は、0-1a層 盛土層（層厚 0.7m）、1-1a層 旧耕土層（層厚 0.1m）、2-1a層 青灰色粗砂と灰色粗砂の攪拌された層（層厚 0.3m）、3-1b層 灰黄褐色粘質シルト層（層厚 0.1m）、4-1b層 灰白色粗砂混じり粘質シルト層（層厚 0.1m）、5-1b層 灰白色粗砂層（層厚 0.1m）、6-1b層 灰色粘土層（層厚 0.2m）、7-1b層 青灰色粘土層（層厚 0.4m 以上）である。

4層上面で遺構検出を行ったが、遺構・遺物は確認できなかった。

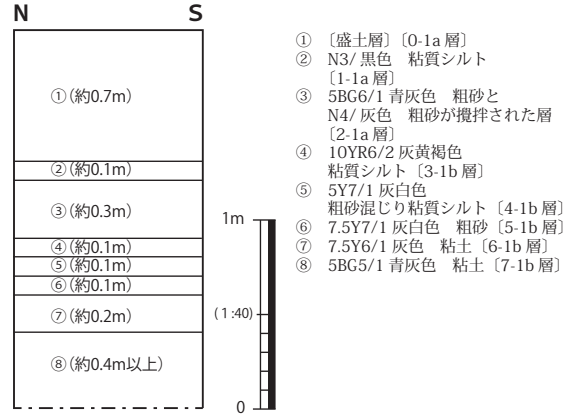


図 64 断面柱状図 (玉櫛遺跡 2018-4)

#### 5. 西方浄土寺跡 2017-3 (図 65・66)

調査地 真砂一丁目434-6

調査期間 平成30年3月23日

調査面積 6㎡

調査担当 木村健明



図 65 西方浄土寺跡調査地位置図

はじめに 真砂一丁目において計画された個人住宅建築に伴って、2m × 3m の調査区を設定し確認調査を行った。

基本層序 層序は、0-1a層 盛土（層厚 0.7 ~ 1.1m）、1-1a層 灰色粗砂混じり粘質シルト（層厚 0.2m）、2-1a層 灰黄色粘質シルト（層厚 0.1m）、3-1a層 黄灰色粗砂混じり粘質シルト（層厚 0.3m）、

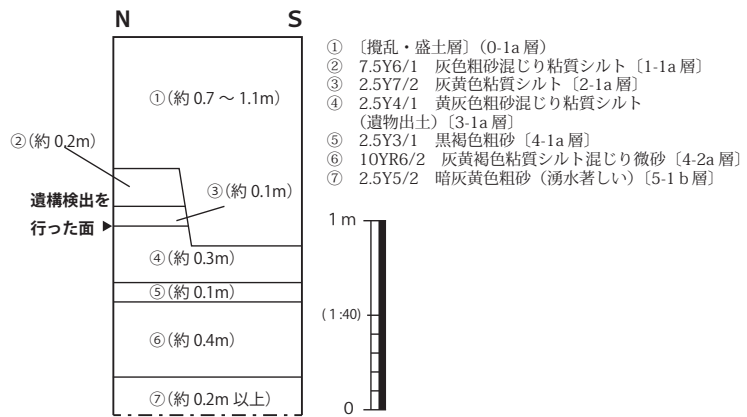


図 66 断面柱状図 (西方浄土寺 2017-3)

4-1a層 黒褐色粗砂（層厚 0.1m）、4-2a層 灰黄褐色粘質シルト混じり微砂（層厚 0.4m）、5-1 b層 暗灰色粗砂（層厚 0.2m 以上・湧水著しい）である。

3-1a層から近世と考えられる土師器風炉片が出土した。

3-1a層以下は砂を多く含んでおり、出土遺物から見て近世頃に堆積した層の可能性はある。明確な遺構は確認することができなかったが、様相の不明な点が多い西方浄土寺跡内の堆積状況を確認することができた。

## 第10節 平田遺跡・目垣遺跡

### 1. 平田遺跡 2018-1（図 67・68）

調査地 平田二丁目109の一部

調査面積 4㎡

調査期間 平成30年6月22日

調査担当 正岡大実

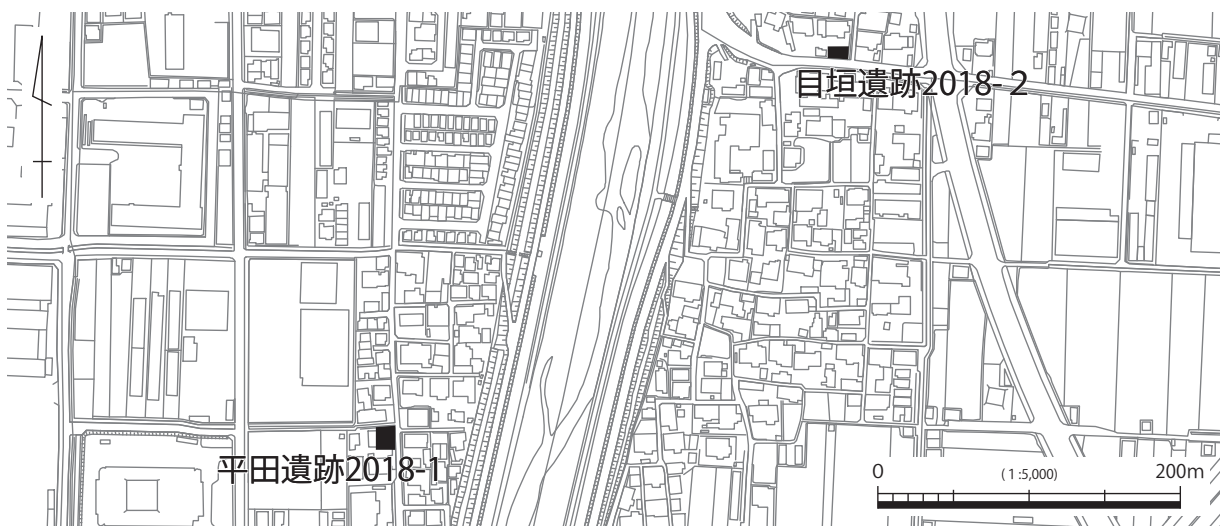


図 67 平田遺跡・目垣遺跡調査地位置図

はじめに 平田二丁目において計画された個人住宅建築に伴って、2m × 2m の調査区を設定し、確認調査を行った。調査地の現況地盤は東面する現況道路面より約 0.3m 高く、調査地内は概ね平坦である。

基本層序 今次調査で確認できた基本層序は、以下の大別 4 層、細別 7 層に区分され、上層から順に、  
 0層 近～現代盛土層（0-1a・0-2a層 層厚 1.3m）、  
 1層 細砂～極細砂を主体とする土壤層（1-1a層 層厚 0.1m）、2層 中砂混じり砂質シルトを主体とする耕作土層と細礫から粗砂

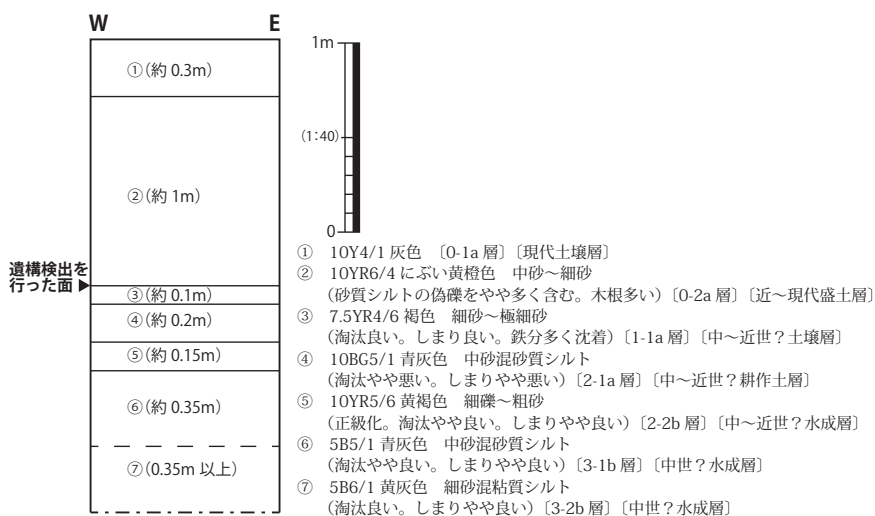


図 68 断面柱状図（平田遺跡 2018-1）

まで級化する水成層(2-1a・2-2b層 層厚0.35m)、3層 中～細砂混シルトを主体とする水成層(3-1b・3-2b層 層厚0.7m以上)である。

調査にあたってはまず、もっとも層界が明瞭であった0層下面において平面的な精査を行ったが、遺構・遺物は確認できなかった。また、さらに下位の層準についてはGLから2.5m下まで調査を行ったが、湧水による壁面の崩落が著しく、3層の掘削途中で調査を断念せざるを得なかった。いずれの層準においても遺構・遺物ともに確認できなかったため、各層準の帰属時期は明らかにしがたい。層相から推察する限りは、3層までは中世までに形成された堆積物と見受けられるが、詳細については周辺域でのさらなる成果の追加を俟って慎重に判断する必要がある。

## 2. 目垣遺跡 2018-2 (図 67・69)

調査地 目垣二丁目739-6

調査面積 6.25㎡

調査期間 平成30年9月18日

調査担当 富田卓見

はじめに 目垣二丁目において計画された個人住宅の建築に伴い、建物建築範囲内に調査区を設定し、発掘調査を行った。

基本層序 基本層序は6層に大別でき、上層から0層：碎石・現代盛土・攪乱、1層：近現代盛土？、2層：整地土？、3層：中世？整地土、4層：土壌化層（遺物包含層）、5層：ベース土層の堆積である。遺構検出は、4層下面で実施した。これ以下については、安全面から危険と判断し確認できなかった。

遺構・遺物 GL－2mの範囲において、遺構は認められなかった。遺物は、3層から摩滅した土師器片が、4層から土師器・須恵器の細片が出土した。

まとめ 今次調査では、遺物は確認したが、遺構は認められなかった。しかし、同一敷地内で実施した目垣遺跡 2017-1、目垣遺跡 2018-1の調査では、それぞれ埋蔵文化財を確認している。目垣遺跡 2017-1では、大型の不明遺構とその埋土中から摂津C型に類する羽釜がほぼ完形の状態で出土した。目垣遺跡 2018-1では溝状遺構を検出し、その埋土中から台付き皿・土師器「て」の字小皿などが完形で出土している。今次調査では、隣地での調査と同様にGL－1.8m付近で土器片を含む土壌化層を確認した。これらの隣り合う3つの調査結果から判断すると、GL－1.9m付近で遺構・遺物が認められ、土壌化層の下面に10世紀代に属する集落の遺構が広がっていると推測される。

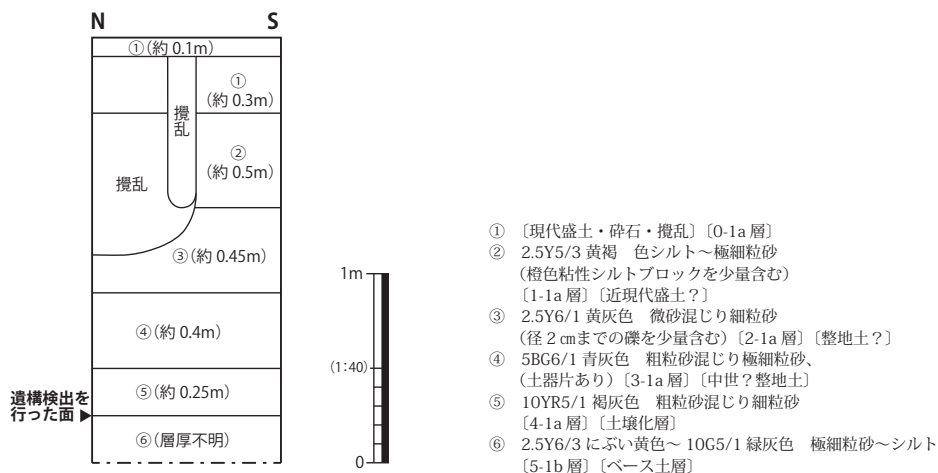


図 69 断面柱状図 (目垣遺跡 2018-2)

## 第11節 千提寺菱ヶ谷遺跡 2018-1 (図70、図版6) (第六次範囲確認調査)

調査地 茨木市大字千提寺36番8

調査原因 史跡指定に向けた範囲確認調査

調査期間 平成30年5月14日～31年3月31日

調査面積 51.89㎡

調査担当 坂田典彦・富田卓見

### (1) 調査に至る経緯と経過

調査の経緯については、これまでの各確認調査報告において詳述したため(茨木市教育委員会2016・2017・2018)、本項ではその経過を追いつつ略述する。千提寺地区における交流拠点広場の建設に伴い、平成26年9月に試掘調査を実施した結果、20を超える遺構が認められた。この結果を受け、同年11月に新たな埋蔵文化財包蔵地「千提寺菱ヶ谷遺跡」として周知された。その後、本市教育委員会は同年11月から第一次調査を実施し、今回の第六次調査まで断続的に調査を行ってきた。これまでの調査では、江戸時代の男性とみられる頭蓋骨の一部が出土した1土坑墓、遺跡最高所で検出した大型土坑、炭化物と被熱痕をもつ土坑を検出し、南斜面地では数段のテラス面が造成されていることを確認した(図70)。また、人骨、炭化物については自然科学分析を実施した。

### (2) 調査の方法と目的

今次調査は、遺構の有無や旧地形の把握のため、合計4箇所にてトレンチを設定し調査を実施した(図70)。内1箇所は、前年度の千提寺菱ヶ谷遺跡2017-1で墓坑を確認していたもので、調査体制を整え土坑墓の範囲のみを再調査し、人骨を取り上げた。調査方法は、これまでと同様に地山層上面にて遺構

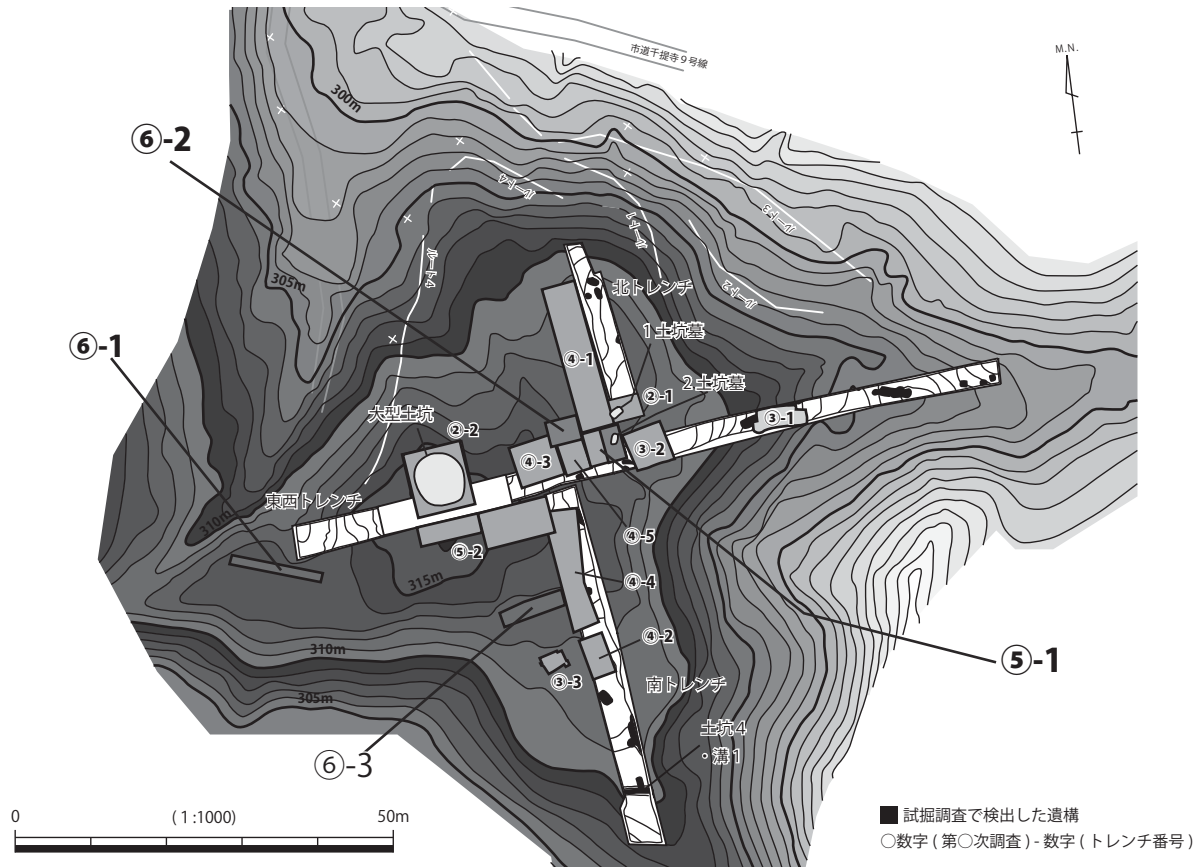


図70 トレンチ配置図・遺構配置図(千提寺菱ヶ谷遺跡2018-1)

を検出し、遺構の平面プラン、形態を確認、記録保存を行う方法で実施した。

### (3) 調査の成果

**基本層序** 本遺跡の層序は大別で4層に分層でき、上層より現地表面を含む表土・腐植土および試掘埋め戻し土(1層)、斜面地の表層堆積層・斜面堆積層(2層)、地山(3層、無遺物層)、そして当遺跡の基盤岩(4層、花崗岩体)である。遺構の帰属層位は3層で、遺構面は3層上面、3層が流出している箇所では4層上面に当たる。

#### 各トレンチの調査成果

1 トレンチ 12m × 1.2m の調査区(14.4㎡)を設定した。調査の結果、遺構・遺物などの埋蔵文化財は認められなかった。旧地形は、西端ではわずかに平坦をもつが、東に向かうほど急激に下がり谷地形を形成していた。

2 トレンチ 3.3m × 3.3m 調査区(10.89㎡)を設定した。調査の結果、遺構・遺物などの埋蔵文化財は認められなかった。旧地形は、現況と同様に東へ下る斜面地形で、1・2層の直下で3層が認められた。

3 トレンチ 8.3m × 2m の調査区(16.6㎡)を設定した。調査の結果、調査区内東端にて土坑1基が認められた。平面形は、楕円形に近い様相を呈する。埋土中に2cm大の炭化物が多く含まれており、遺構内壁面の一部は被熱で赤色を呈していた(以下、焼土坑と称する)。この焼土坑に酷似しているものが第三次調査でも確認されており(SK5)、分析の結果、約800年前の鎌倉時代に帰属し、クリ材を使用した坑内製炭遺構の可能性が示唆された。今回の焼土坑も炭焼き窯と考えられる。旧地形は、西崖が現在よりも約3m東にあり、テラスの幅が狭かったことがわかった。後世の堆積によって、現況の傾斜地を形成したと考えられる。

千提寺菱ヶ谷遺跡 2017-11 トレンチ 前回の1トレンチ内の土坑墓周辺部に2.5m × 4m の調査区(10㎡)を設定した。前回の調査では、遺構上部で検出した大腿骨と寛骨の記録保存に留めたが、今次調査ではさらに掘り下げ、1体分の人骨を検出した。土坑墓は、長辺1.55m、短辺0.9m、深さ0.95mを測り、平面プランは隅丸長方形を呈する。頭位は南である。木棺などの痕跡や釘などは出土しておらず、おそらく直葬であろう。人骨以外の遺物については、すべての遺構埋土を網目の大きさが違う3種のふるいにかけてしたが、見つかっていない。取り上げた人骨は今後専門的な視点で分析する予定で、生存年代・年齢・持病・外傷などの詳細が判明すると思われる。

### (4) おわりに

これまで実施した千提寺菱ヶ谷遺跡の発掘調査成果については、来年度にまとめて報告する予定である。そのため、今回は国庫補助金の適用実績として速報的に報告した。当遺跡が位置する千提寺は「かくれキリシタンの里」として周知されている地域であり、今後は地域住民の理解と協力のもと、周知・活用していくことが重要である。

#### [参考文献]

茨木市教育委員会 2016 『平成27年度茨木市埋蔵文化財発掘調査概報8』

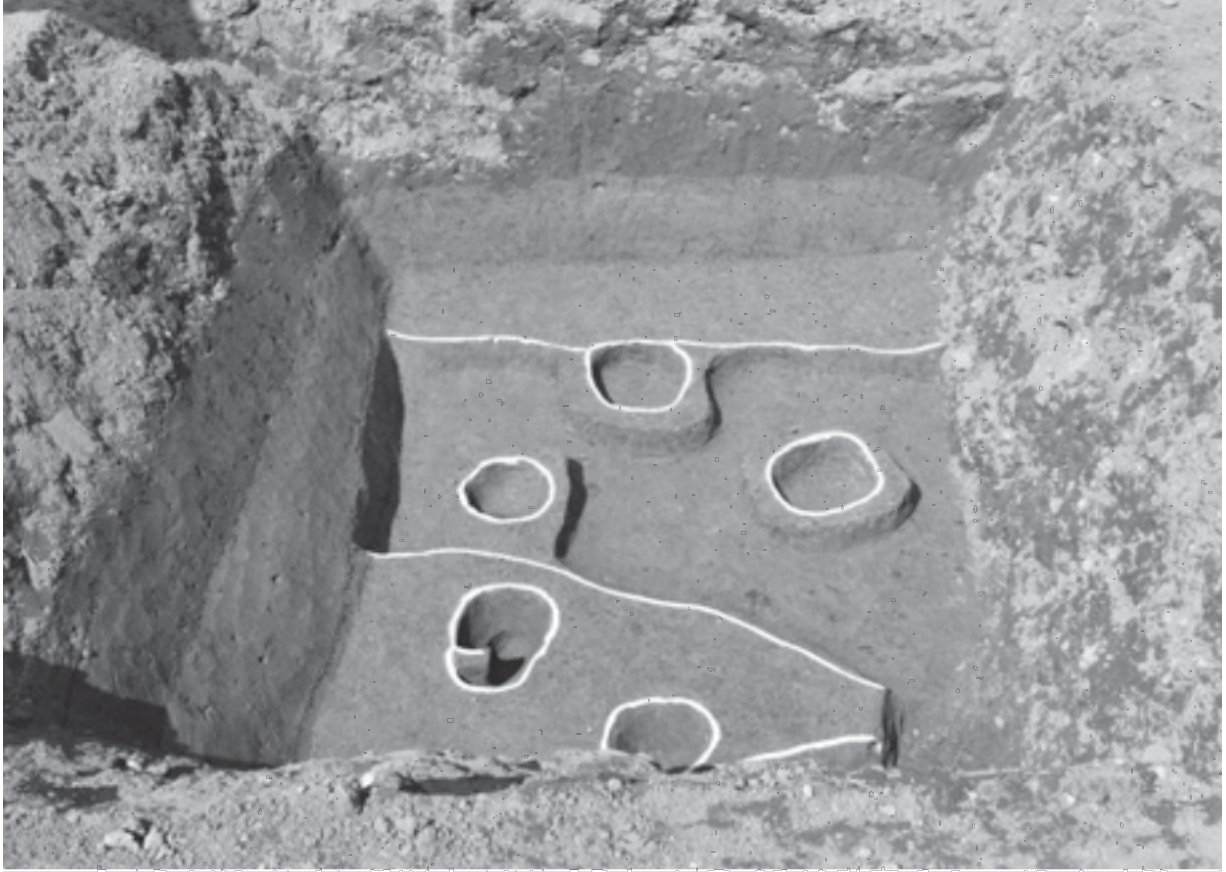
茨木市教育委員会 2017 『平成28年度茨木市埋蔵文化財発掘調査概報9』

茨木市教育委員会 2018 『平成29年度茨木市埋蔵文化財発掘調査概報』

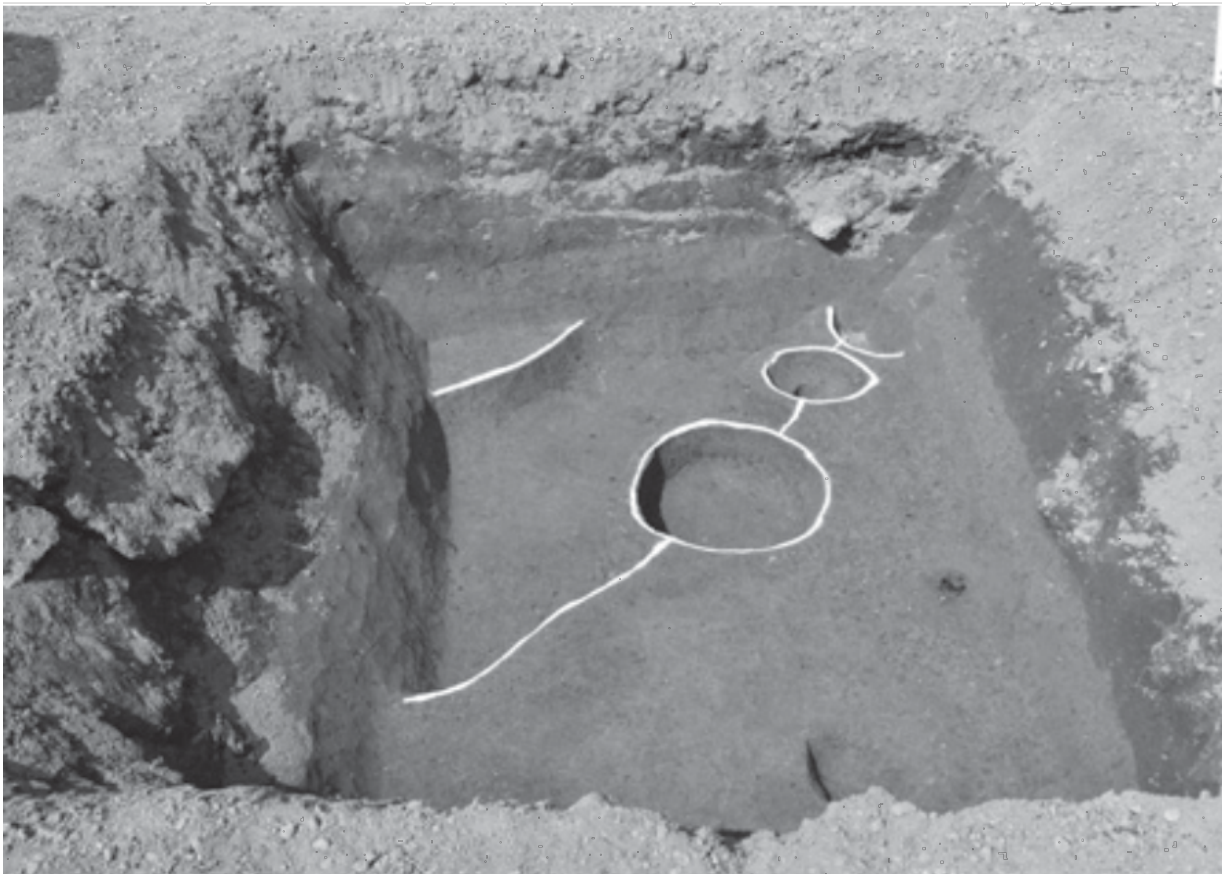
# 写 真 图 版







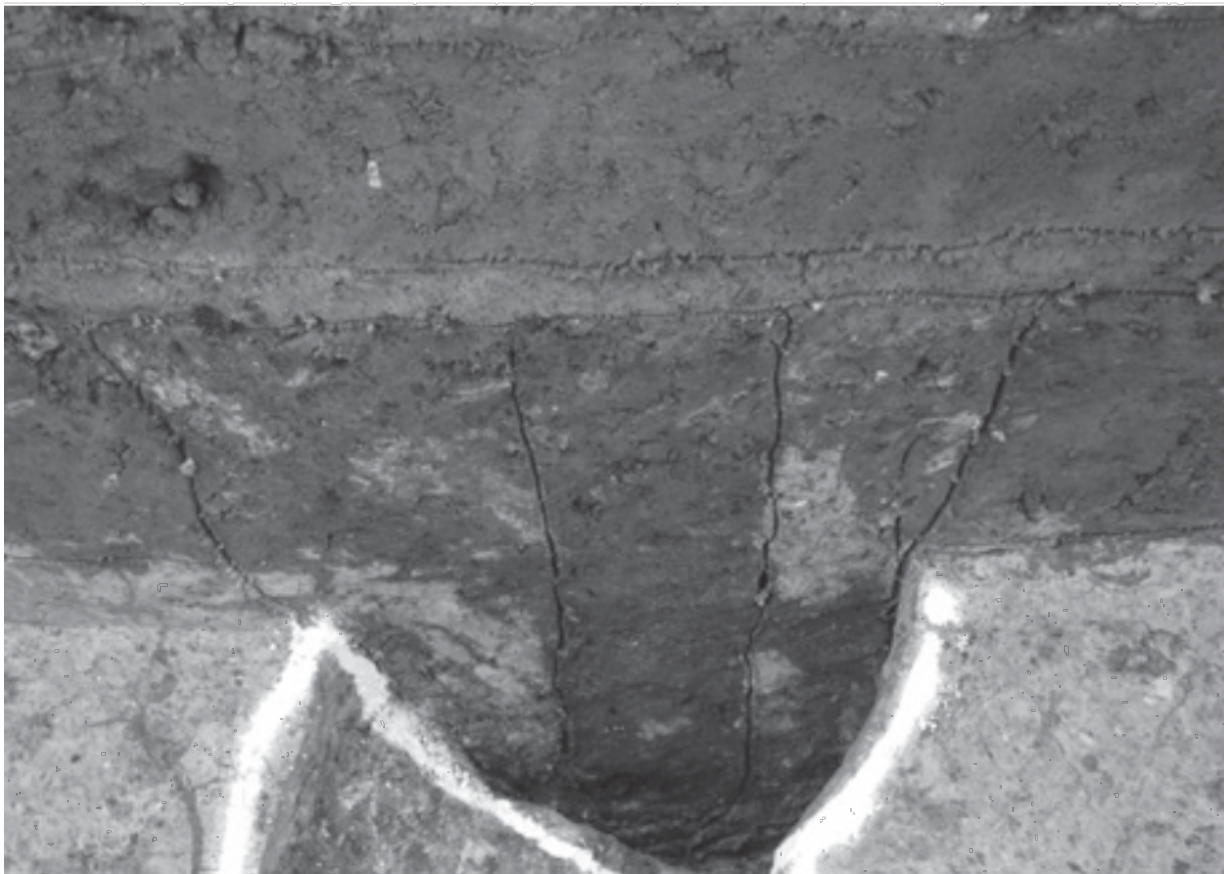
1. 茨木遺跡 2017-14 西半部 完掘状況 (南から)



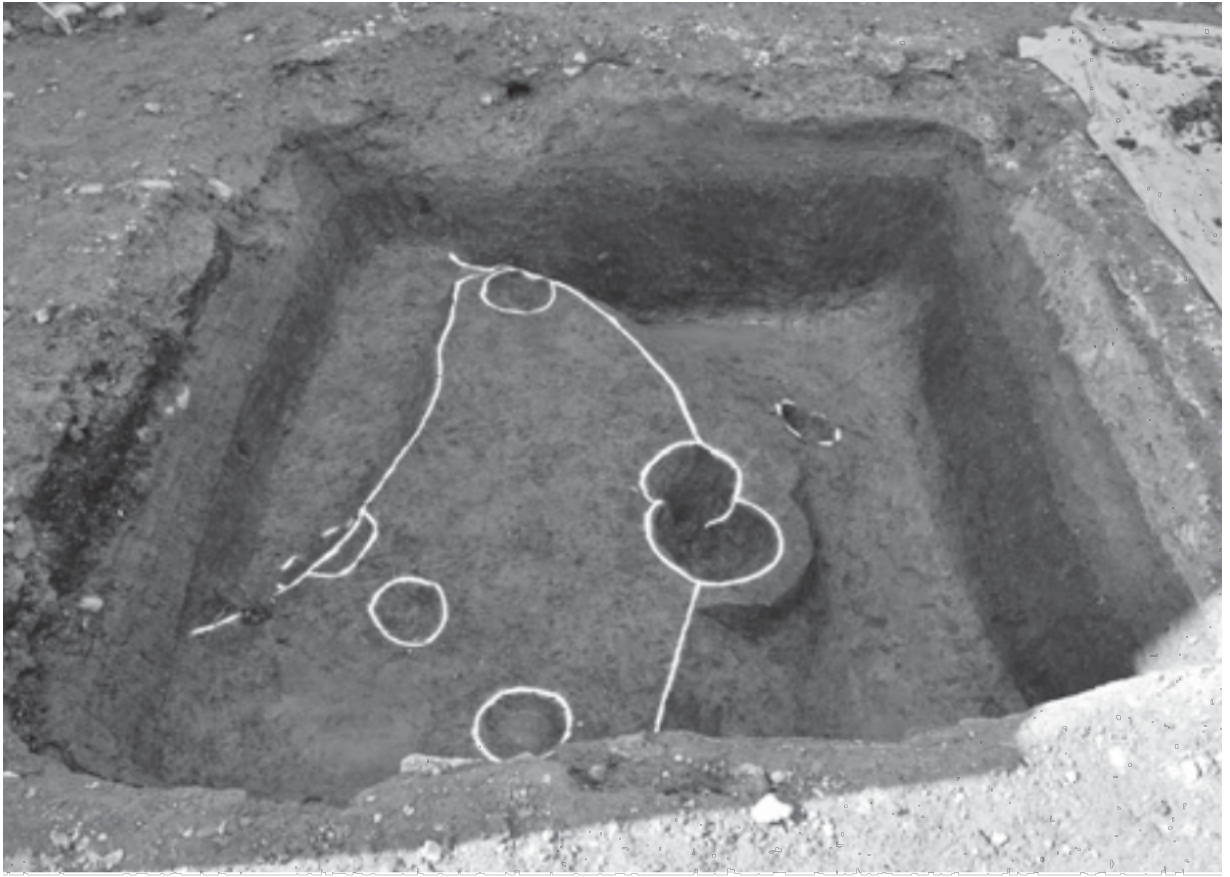
2. 茨木遺跡 2017-14 東半部 完掘状況 (南から)



1. 春日遺跡 2017-3 完掘状況 (東から)



2. 春日遺跡 2017-3 9ピット断面 (北から)



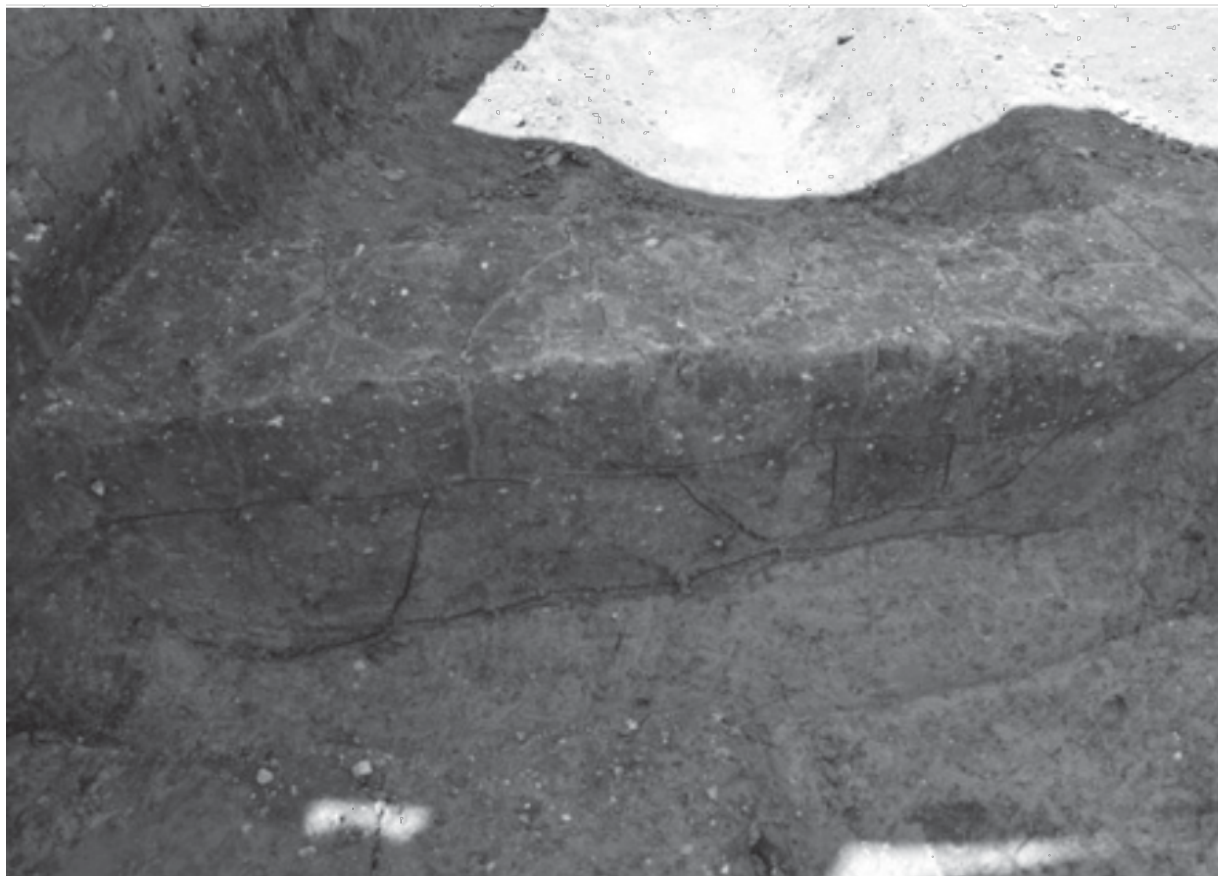
1. 倍賀遺跡 2018-2 完掘状況 (南から)



2. 倍賀遺跡 2018-2 1溝断面 (北から)



1. 郡遺跡 2018-2 完掘状況 (南から)



2. 郡遺跡 2018-2 1 竪穴建物・12ピット断面 (南から)



1. 西国街道 2018-1 南壁断面（北から）



2. 中条小学校遺跡 2018-4 西壁断面（東から）



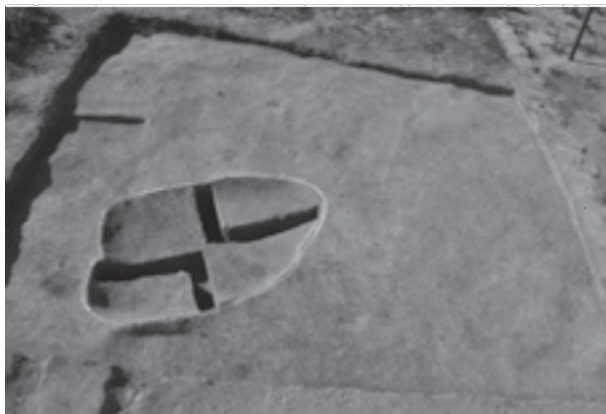
1. 1トレンチ (2017-1) 人骨出土状況 (北西から)



2. 1トレンチ (2017-1) 全景 (南から)



3. 1トレンチ (2018-1) 全景 (北東から)



4. 2トレンチ (2018-1) 全景 (南から)



5. 3トレンチ (2018-1) 全景 (南東から)

# 報告書抄録

ふりがな	へいせいさんじゅうねんどいぼらきしまいぞうぶんかざいほくつちょうさがいほうへいせいさんじゅうねんどこっごほじょじぎょう
書名	平成30年度茨木市埋蔵文化財発掘調査概報—平成30年度国庫補助事業—
シリーズ名	茨木市文化財資料集
シリーズ番号	第72集
編著者	木村健明、坂田典彦、高村勇士、富田卓見、正岡大実、宮西貴史
編集機関	茨木市教育委員会
所在地	〒567-8505 大阪府茨木市駅前三丁目8番13号
発行年月日	平成31年(2019)3月31日

所収遺跡	所在地	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因	
茨木遺跡2017-8	大手町	34° 81' 54"	135° 57' 23"	20180118	6㎡	個人住宅 建設工事	
茨木遺跡2017-9	宮元町	34° 81' 95"	135° 57' 48"	20180122	6㎡		
茨木遺跡2017-14	宮元町	34° 82' 15"	135° 57' 37"	20180326	13.5㎡		
茨木遺跡2018-2	新庄町	34° 81' 41"	135° 57' 20"	20181005	6㎡		
上中条遺跡2018-1	上中条二丁目	34° 82' 16"	135° 56' 82"	20181011	6㎡		
春日遺跡2017-3	春日三丁目	34° 82' 16"	135° 56' 20"	20180111	9㎡		
春日遺跡2017-4	春日三丁目	34° 82' 17"	135° 56' 18"	20180112	7.5㎡		
春日遺跡2017-5	春日三丁目	34° 82' 10"	135° 56' 23"	20180119	7.5㎡		
春日遺跡2017-6	春日三丁目	34° 82' 11"	135° 56' 24"	20180312	5㎡		
春日遺跡2018-1	春日五丁目	34° 82' 36"	135° 56' 20"	20180514	9㎡		
春日遺跡2018-2	上穂東町	34° 80' 90"	135° 58' 06"	20180618~0619	4㎡		
倍賀遺跡2018-2	春日五丁目	34° 82' 43"	135° 56' 27"	20180508~0509	9㎡		
郡遺跡2018-2	畑田町	34° 82' 89"	135° 58' 41"	20180731~0801	14㎡		
郡遺跡・穂積廃寺跡・三島街道2018-1	上穂積三丁目	34° 82' 53"	135° 55' 78"	20181009	6㎡		
穂積廃寺跡・三島街道2018-1	上穂積二丁目	34° 82' 25"	135° 55' 68"	20181022	6㎡		
宿久庄遺跡2018-1	豊川一丁目	34° 83' 57"	135° 53' 67"	20180829	6㎡		
西国街道2018-1	宿河原町	34° 83' 51"	135° 54' 43"	20180426	9㎡		
総持寺遺跡2018-1	三島丘一丁目	34° 83' 22"	135° 57' 71"	20180406	5.5㎡		
太田遺跡2018-2	太田一丁目	34° 84' 06"	135° 57' 53"	20181002	6㎡		
太田遺跡・西国街道2018-1	太田一丁目	34° 84' 13"	135° 57' 54"	20181207	6㎡		
太田北遺跡・西国街道2018-1	太田三丁目	34° 84' 22"	135° 57' 83"	20181126	6㎡		
中穂積遺跡・三島街道2018-1	中穂積二丁目	34° 81' 79"	135° 55' 67"	20180110	6㎡		
松ヶ本北遺跡2018-1	松ヶ本町	34° 81' 40"	135° 56' 83"	20180712	6.25㎡		
常楽寺跡2018-1	蔵垣内三丁目	34° 79' 38"	135° 55' 62"	20181213	6㎡		
牟礼遺跡2017-8	中津町	34° 81' 66"	135° 58' 38"	20180216	6㎡		
牟礼遺跡2018-4	舟木町	34° 81' 30"	135° 57' 78"	20181205	9㎡		
中条小学校遺跡2018-4	奈良町	34° 80' 87"	135° 58' 60"	20180718	4㎡		
中条小学校遺跡2018-5	東中条町	34° 81' 29"	135° 56' 84"	20180809	6.25㎡		
東奈良遺跡2017-10	天王一丁目	34° 80' 34"	135° 56' 18"	20180227	6㎡		
東奈良遺跡2017-11	沢良宜西二丁目	34° 79' 68"	135° 56' 46"	20180302	6.25㎡		
東奈良遺跡2018-4	沢良宜西一丁目	34° 79' 82"	135° 56' 38"	20181025	9㎡		
玉櫛遺跡2018-1	真砂一丁目	34° 80' 06"	135° 57' 45"	20180515	9㎡		
玉櫛遺跡2018-2	真砂一丁目	34° 80' 04"	135° 57' 43"	20180516	9㎡		
玉櫛遺跡2018-3	玉櫛二丁目	34° 80' 26"	135° 57' 48"	20180710	6.3㎡		
玉櫛遺跡2018-4	真砂一丁目	34° 80' 07"	135° 57' 44"	20181212	4㎡		
西方浄土寺跡2017-3	真砂一丁目	34° 79' 87"	135° 57' 55"	20180323	6㎡		
平田遺跡2018-1	平田二丁目	34° 80' 48"	135° 59' 02"	20180622	4㎡		
目垣遺跡2018-2	目垣二丁目	34° 80' 71"	135° 59' 34"	20180918	6.25㎡		
千提寺菱ヶ谷遺跡2017-1 (第5次)	大字千提寺	34° 53' 04"	135° 31' 56"	20171121~ 20180331	53㎡		範囲確認
千提寺菱ヶ谷遺跡2018-1 (第6次)				20180514~ 20190331	51.89㎡		

所収遺跡	種別	主な時代	遺構	遺物	特記
茨木遺跡2017-8	集落跡	中世	—	土師器・須恵器	
茨木遺跡2017-9	集落跡	中世	—	—	
茨木遺跡2017-14	集落跡	中世	ピット・溝・ 落ち込み	土師器・須恵器・瓦器	
茨木遺跡2018-2	集落跡	中世	溝・土坑	—	
上中条遺跡2018-1	集落跡	弥生・古墳	—	—	
春日遺跡2017-3	集落跡	古墳	ピット・落ち込み	土師器・須恵器・瓦器	
春日遺跡2017-4	集落跡	古墳	ピット・溝	土師器・須恵器	
春日遺跡2017-5	集落跡	古墳	—	—	
春日遺跡2017-6	集落跡	古墳	—	—	
春日遺跡2018-1	集落跡	古墳	ピット	土師器・須恵器	
春日遺跡2018-2	集落跡	古墳	ピット	土師器・須恵器	
倍賀遺跡2018-2	社寺跡	古墳	ピット・溝	土師器・須恵器・瓦器	
郡遺跡2018-2	集落跡	弥生・古墳	竪穴建物・ピット 土坑・溝	弥生土器・土師器・須恵 器・瓦器	
郡遺跡・穂積廃寺跡・三島街 道2018-1	集落跡・社 寺跡・街道	弥生・古墳・奈良・近世	—	—	
穂積廃寺跡・三島街道2018-1	社寺跡・街道	奈良・近世	—	—	
宿久庄遺跡2018-1	集落跡	弥生	井戸	土師器	
西国街道2018-1	街 道	近世	土坑	土師器・陶磁器	
総持寺遺跡2018-1	集落跡	弥生・古墳	—	—	
太田遺跡2018-2	集落跡	弥生～中世	—	—	
太田遺跡・西国街道2018-1	集落跡・街道	弥生～中世・近世	—	土師器・須恵器	
太田北遺跡・西国街道2018-1	集落跡・街道	古墳～中世・近世	—	—	
中穂積遺跡・三島街道2018-1	集落跡・街道	奈良～中世・近世	土坑	—	
松ヶ本北遺跡2018-1	集落跡・街道	古墳～中世	—	—	
常楽寺跡2018-1	社寺跡	奈良	溝	土師器	
牟礼遺跡2017-8	集落跡	縄文	—	—	
牟礼遺跡2018-4	集落跡	縄文	—	—	
中条小学校遺跡2018-4	集落跡	弥生・古墳	ピット・土坑	土師器・須恵器	
中条小学校遺跡2018-5	集落跡	弥生・古墳	—	—	
東奈良遺跡2017-10	集落跡	弥生・古墳	—	—	
東奈良遺跡2017-11	集落跡	弥生・古墳	—	—	
東奈良遺跡2018-4	集落跡	弥生・古墳	—	—	
玉櫛遺跡2018-1	集落跡	古墳・平安・中世	—	—	
玉櫛遺跡2018-2	集落跡	古墳・平安・中世	—	土師器・瓦器	
玉櫛遺跡2018-3	集落跡	古墳・平安・中世	—	—	
玉櫛遺跡2018-4	集落跡	古墳・平安・中世	—	—	
西方浄土寺跡2018-3	社寺跡	奈良・平安・中世	—	土師器	
平田遺跡2018-1	散布地	中世	—	—	
目垣遺跡2018-2	集落跡	弥生	—	土師器・須恵器	
千提寺菱ヶ谷遺跡2017-1	その他の墓	中世・近世	土坑墓・溝・墓	人骨	
千提寺菱ヶ谷遺跡2018-1					

茨木市文化財資料集 第72集

### 平成30年度 茨木市埋蔵文化財発掘調査概報

—平成30年度国庫補助事業—

発行日 平成31年3月31日

発行 茨木市教育委員会

印刷 株式会社トゥユー